

千葉県八千代市

# 市内遺跡発掘調査報告書

上谷津台南遺跡	h 地点
平作遺跡	a 地点
平沢遺跡	d 地点
川崎山遺跡	s 地点
高津館跡	d 地点
勝田大作遺跡	d 地点
白幡前遺跡	d 地点
小板橋遺跡	g 地点
小板橋遺跡	h 地点
小板橋遺跡	i 地点
高津新山遺跡	b 地点
高津新山遺跡	c 地点
内込遺跡	c 地点
堰場台古墳	c 地点
米本辺田台遺跡	b 地点
道地遺跡	j 地点
稻荷前遺跡	e 地点
東帰久保遺跡	a 地点
雷遺跡	c 地点

平成 26 年度

八千代市教育委員会

## 例 言

1 本書は、八千代市教育委員会が平成25年度市内遺跡発掘調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成作業は、平成26年度事業として行った。

2 本書に収録した遺跡は、以下のとおりである。

No	遺跡No	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積 (㎡) 掘削/対象	調査原因	担当者
1	229	上谷津台南遺跡 h 地点	上高野字上谷津台 1112番3	H25. 5. 2 ～5. 9	上層48/420 下層8/420	宅地造成	宮澤
2	141	平作遺跡 a 地点	大和田新田字平作 830番	H25. 6. 4 ～6. 20	上層 518/5,190	太陽光発電 設備設置	宮澤
3	217	平沢遺跡 d 地点	上高野字平沢 151-1	H25. 7. 16 ～7. 23	上層 294/3,020	改良土 プラント	宮澤
4	241	川崎山遺跡 s 地点	荻田字中台 2361番2	H25. 8. 6 ～8. 12	上層 220/2,263.02	集合住宅	宮澤
5	238	高津館跡 d 地点	高津1329の一部	H25. 9. 9 ～9. 13	上層 42/500	宅地造成	宮澤
6	254	勝田大作遺跡 d 地点	勝田字大作 637番3	H25. 9. 19 ～9. 25	上層 32/354.53	宅地造成	宮澤
7	185	白幡前遺跡 d 地点	荻田字牛噴1767外	H25. 9. 30 ～10. 11	上層 226/2,306	宅地造成・ 集合住宅	宮澤
8		小板橋遺跡 g 地点	大和田226-2	H25. 10. 17 ～10. 21	上層 14/165	その他建物	宮澤
9	245	小板橋遺跡 h 地点	大和田221-13	H26. 1. 21 ～1. 23	上層 13.2/145.94	集合住宅	宮澤
10		小板橋遺跡 i 地点	大和田字台田道 221-75外	H26. 2. 14 ～2. 19	上層 32/405.49	宅地造成	宮澤
11	239	高津新山遺跡 b 地点	八千代台北17丁目 1643番10外	H25. 11. 13 ～11. 21	上層 152/1,592.37	宅地造成	宮澤
12		高津新山遺跡 c 地点	高津東3-7-11	H25. 11. 21 ～11. 26	上層 16/229.34	個人住宅	宮澤
13	246	内込遺跡 c 地点	八千代台北17丁目 1624番1, 2	H25. 11. 29 ～12. 17	上層 275.2/388	宅地造成	宮澤
14	271	堀場台古墳 c 地点	大和田堀場台 285番13	H25. 12. 9 ～12. 16	上層 20/218.45	個人住宅	宮澤
15	113	米本辺田台遺跡 b 地点	米本字辺田台 1551番6	H25. 12. 24 ～12. 27	上層 22/248	個人住宅	宮澤
16	18	道地遺跡 j 地点	平戸字西ノ上287-7	H26. 1. 16 ～1. 22	上層 32/345.92	個人住宅	轟
17	232	稲荷前遺跡 e 地点	上高野字上谷津台 1119-16	H26. 2. 24 ～2. 26	上層 14.5/145.81	個人住宅	宮澤
18	41	東堀久保遺跡 a 地点	島田台鼠坂816番6	H26. 2. 27 ～3. 7	上層 96/1,103	店舗建設	宮澤
19	106	雷遺跡 c 地点	米本字島ノ塚 2435番1, 4	H26. 3. 13 ～3. 25	上層 702/8,009	太陽発電 設備建設	宮澤

3 教育委員会の執行体制は以下のとおりである。

調査主体者	加賀谷 孝	八千代市教育委員会	教育長
	小林 伸夫	八千代市教育委員会	教育次長
事務担当者	秋山 利光	八千代市教育委員会教育総務課	主幹（文化財担当）
	常松 成人	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	副主幹
	佐藤麻里子	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	主査
	宮下 聡史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	文化財主事
調査担当者	宮澤 久史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	副主幹
	轟 直行	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	文化財主事

4 整理作業は資料の収集・整理等を見神光恵、拓本・実測・トレースを山下千代子・大倉志子が行い、遺物の写真、本文の執筆・編集を秋山が行った。

5 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図 国土地理院 1/50,000「佐倉」（平成10年発行）

各遺跡の位置図 八千代市 1/2,500「八千代都市計画基本図」（平成2年測図，平成13年修正）  
それぞれ、加筆・修正して使用した。

6 本書の遺構実測図における用例は、以下のとおりである。

(1)図面の縮尺は基本的には以下のとおりとした。

トレンチ配置図 1/250～1,000 土層断面図 1/40～80

その他の図面は必要に応じて適時適切な縮尺で使用した。

(2)図中の網掛けは、図中に凡例を示した。

7 本書の遺物実測図における用例は、以下のとおりである。

(1)図面の縮尺は基本的には以下のとおりとした。

完形土器実測図 1/4 土器拓影図・土製品実測図 1/3 石器・石製品実測図 1/3

(2)図中の網掛けは以下のとおりとした。

 繊維混入土器断面  須恵器断面  施釉

8 表又は本文中の [ ] は現存値，( ) は推定復元値を表している。

また、本文第1表から第14表中の「報告書」の欄における「市内H○」の記載は、本市「市内遺跡発掘調査報告書 平成○年度」掲載を意味する。

本書において、グリッド及びトレンチの表示の基準は、10m方眼のグリッドを組んで調査をした場合、1単位のグリッドを4分割し、1から4のナンバーを付けた小グリッドを設定した。

9 本遺跡の発掘調査に伴う出土品及び図面、写真等の記録類は八千代市教育委員会で保管する。

# 目 次

## 例 言・目 次・挿図目次・図版目次

I 調査に至る経緯	1		
II 各調査の概要	7	11 高津新山遺跡 b 地点	34
1 上谷津台南遺跡 h 地点	7	12 高津新山遺跡 c 地点	37
2 平作遺跡 a 地点	10	13 内込遺跡 c 地点	38
3 平沢遺跡 d 地点	14	14 塚場台古墳 c 地点	42
4 川崎山遺跡 s 地点	17	15 米本辺田台遺跡 b 地点	45
5 高津館跡 d 地点	20	16 道地遺跡 j 地点	47
6 勝田大作遺跡 d 地点	22	17 稲荷前遺跡 e 地点	50
7 白幡前遺跡 d 地点	24	18 東畑久保遺跡 a 地点	52
8 小板橋遺跡 g 地点	28	19 雷遺跡 c 地点	54
9 小板橋遺跡 h 地点	30		
10 小板橋遺跡 i 地点	32	報告書抄録	巻末

## 挿図目次

第1図 平成25年度市内遺跡調査地点位置図	6	第19図 白幡前遺跡 d 地点出土遺物	26
第2図 上谷津台南遺跡 h 地点位置図	7	第20図 小板橋遺跡 g, h, i 地点位置図	28
第3図 同 h 地点トレンチ配置図・土層断面図	8	第21図 同 g 地点トレンチ配置図・ トレンチ及びP1土層断面図	28
第4図 平作遺跡 a 地点位置図	10	第22図 小板橋遺跡 g 地点出土遺物	29
第5図 同 a 地点トレンチ配置図・土層断面図	11	第23図 同 h 地点トレンチ配置図・土層断面図	30
第6図 平作遺跡 a 地点出土遺物	12	第24図 同地点トレンチ配置図・土層断面図	32
第7図 平沢遺跡 d 地点位置図	14	第25図 高津新山遺跡 b, c 地点・ 内込遺跡 c 地点位置図	34
第8図 同 d 地点トレンチ配置図・土層断面図	15	第26図 高津新山遺跡 b 地点 トレンチ配置図・土層断面図	35
第9図 平沢遺跡 d 地点出土遺物	16	第27図 高津新山遺跡 b 地点出土遺物	36
第10図 川崎山遺跡 s 地点位置図	17	第28図 高津新山遺跡 c 地点 トレンチ配置図・土層断面図	37
第11図 同 s 地点トレンチ配置図・土層断面図	18	第29図 内込遺跡 c 地点 トレンチ配置図・土層断面図	38
第12図 川崎山遺跡 s 地点出土遺物	19	第30図 内込遺跡 c 地点出土遺物	40
第13図 高津館跡 d 地点位置図	20	第31図 塚場台古墳 c 地点位置図	42
第14図 同 d 地点トレンチ配置図・土層断面図	20		
第15図 勝田大作遺跡 d 地点位置図	22		
第16図 同 d 地点トレンチ配置図・土層断面図	23		
第17図 白幡前遺跡 d 地点位置図	24		
第18図 同 d 地点トレンチ配置図・土層断面図	25		

第32図	同 g 地点トレンチ配置図・土層断面図	43	第40図	稲荷前遺跡 e 地点位置図	50
第33図	堰場台古墳 c 地点出土遺物	43	第41図	同 e 地点トレンチ配置図・土層断面図	51
第34図	堰場台古墳 a, b, c 地点位置図	43	第42図	東婦久保遺跡 a 地点位置図	52
第35図	米本辺田台遺跡 b 地点位置図	45	第43図	同 a 地点トレンチ配置図・土層断面図	53
第36図	同 d 地点トレンチ配置図・土層断面図	45	第44図	雷遺跡 c 地点位置図	54
第37図	道地遺跡 j 地点位置図	47	第45図	同 c 地点トレンチ配置図・土層断面図	55
第38図	同 j 地点トレンチ配置図・土層断面図	48	第46図	雷遺跡 c 地点出土遺物	56
第39図	道地遺跡 j 地点出土遺物	49			

## 表目次

第1表	上谷津台南遺跡の調査	7	第8表	高津新山遺跡の調査	34
第2表	平沢遺跡の調査	14	第9表	内込遺跡の調査	38
第3表	川崎山遺跡の調査	18	第10表	堰場台古墳の調査	42
第4表	高津館跡の調査	20	第11表	米本辺田台遺跡の調査	45
第5表	勝田大作遺跡の調査	22	第12表	道地遺跡の調査	48
第6表	白幡前遺跡の調査	24	第13表	稲荷前遺跡の調査	50
第7表	小板橋遺跡の調査	30	第14表	雷遺跡の調査	54

## 図版目次

図版1	上谷津台南遺跡 h 地点	9	図版11	高津新山遺跡 b 地点	36
図版2	平作遺跡 a 地点	13	図版12	高津新山遺跡 c 地点	37
図版3	平沢遺跡 d 地点	16	図版13	内込遺跡 c 地点 (1)	39
図版4	川崎山遺跡 s 地点	19	図版14	内込遺跡 c 地点 (2)	41
図版5	高津館跡 d 地点	21	図版15	堰場台古墳 c 地点	42
図版6	勝田大作遺跡 d 地点	23	図版16	米本辺田台遺跡 b 地点	45
図版7	白幡前遺跡 d 地点	27	図版17	道地遺跡 j 地点	49
図版8	小板橋遺跡 g 地点	29	図版18	稲荷前遺跡 e 地点	51
図版9	小板橋遺跡 h 地点	31	図版19	東婦久保遺跡 a 地点	53
図版10	小板橋遺跡 i 地点	33	図版20	雷遺跡 c 地点	56

# I 調査に至る経緯

八千代市は千葉県の北西部に位置し、都心から東へ約30km、千葉市の中心部から北へ約13kmの距離にある。地理的には房総半島の内陸部に位置し、印旛沼西岸の平坦な下総台地とそれを樹枝状に開析する谷津や河川が形成されている。

市域の中心を南北に貫く新川は印旛沼水系に属している。新川は上流域で勝田川、下流域では平戸川と呼ばれていたが、千葉市の長沼一帯を水源としており、南から北に流下し、周囲の流れを集めて、平戸付近で流れを東に変え、印旛沼に流れ込む。新川左岸から高津川、桑納川、神崎川などの河川が合流し、大和田・睦・阿蘇の3つの区域に台地を区分している。

本市における埋蔵文化財は、千葉県教育委員会の指導のもと、八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）が開発事業等の事前の手続きとして、「埋蔵文化財の取り扱いについて（確認）」（以下「確認依頼」という。）の提出を開発業者等に求め、その保護に努めている。開発予定地に埋蔵文化財が所在し、確認調査が必要と判断された開発事業等については、事業者の協力を得て、国庫及び県費の補助を受け「市内遺跡発掘調査事業」として、確認調査を実施している。

以下は、平成25年度に実施した「市内遺跡発掘調査事業」の各調査に至る経緯である。

## 1. 上谷津台南遺跡 h地点

平成25年3月、有限会社 比良田不動産から八千代市上高野字上谷津台1112番3外に宅地造成工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地の一部は、周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、また、現況は畑地と駐車場であったが、周辺の畑地で縄文土器の散布が確認されており、近隣の調査でも遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は文化財保護法（以下「法」という。）第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向のため、確認調査を行うことを合意した。

同年4月、事業者主体者となったアイディホーム株式会社から法第93条第1項の規定による土木工事のための発掘届（以下「法第93条の届出」という。）が提出された。市教委は準備の整った5月2日に調査を開始した。

## 2. 平作遺跡 a地点

平成25年4月、高橋礼子氏から八千代市大和田新田字平作830に太陽光発電設備建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は山林であったが、近隣の畑地では遺物の散布が確認されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向のため、確認調査を行うことを合意した。

同年4月、同人から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った6月4日に調査を開始した。

### 3. 平沢遺跡 d地点

平成25年3月、山崎重信氏から八千代市上高野字平沢151番1に山林の伐採工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は山林であったが、近隣の調査では遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向のため、確認調査を行うことを合意した。

同年5月、事業者主体者となった株式会社八千代市水道サービスから法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った7月16日に調査を開始した。

### 4. 川崎山遺跡 s地点

平成25年5月、河野文昭、河野きよ氏から八千代市萱田字中台2261番2の一部に長屋住宅及び共同住宅建築の宅地造成工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は畑地であり、近隣の調査では遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年6月、同人から、法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った8月6日に調査を開始した。

### 5. 高津館跡 d地点

平成25年8月、石井和衛氏から八千代市高津字部田1329に宅地造成工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は畑地や宅地であったが、近隣の荒蕪地では遺物の散布が確認された。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年7月、同人から当初の開発区域の一部に限定して、法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った9月9日に調査を開始した。

### 6. 勝田大作遺跡 d地点

平成25年8月、大東建設株式会社から八千代市勝田字大作637番3に戸建住宅の造成工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地であったが、近隣の調査では遺物が出土していた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年8月、同社から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った9月19日に調査を開始した。

### 7. 白幡前遺跡 d地点

平成25年8月、ロングインジャパン株式会社から八千代市萱田字牛喰1814外に戸建住宅及び集合住宅建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であ

り、現況は畑地であったが、近隣の畑地では遺物の散布が確認されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年8月、同社から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った9月30日に調査を開始した。

#### 8. 小坂橋遺跡 g地点

平成25年9月、株式会社アーネストワンから八千代市大和田字台田道226-2に戸建住宅建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地であったが、近隣の調査では遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年9月、同社から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った10月19日に調査を開始した。

#### 9. 小坂橋遺跡 h地点

平成25年12月、岡田和也氏から八千代市大和田字台田道221-13に集合住宅建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地であったが、近隣の調査では遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年12月、同人から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った平成26年1月21日に調査を開始した。

#### 10. 小坂橋遺跡 i地点

平成26年2月、株式会社アイディールプランニングから八千代市大和田字台田道230-36外に宅地造成工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地であったが、近隣の調査では遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年2月、同社から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った2月14日に調査を開始した。

#### 11. 高津新山遺跡 b地点

平成25年10月、岩井せん、岩井年雄氏から八千代市八千代台北字17丁目1643-10外に宅地造成工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は畑地であったが、近隣の畑地では遺物の散布が確認された。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年10月、事業者主体者となった東海住宅株式会社から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の



整った11月13日に調査を開始した。

#### 12. 高津新山遺跡 c地点

平成25年10月、鈴木誠氏から八千代市高津東3丁目7-11に個人住宅建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地であったが、近隣の調査では遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年10月同人から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った11月21日に調査を開始した。

#### 13. 内込遺跡 c地点

平成25年10月、鈴木章臣氏から八千代市八千代台北17丁目1624番1、2に宅地造成工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は畑地であったが、近隣の調査では遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年10月、事業者主体者となった株式会社東栄住宅から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った11月29日に調査を開始した。

#### 14. 塚場台古墳 c地点

平成25年10月、萬田忠久、萬田彩子氏から八千代市大和田字塚場台285番13の一部に個人住宅建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は駐車場であったが、近隣の調査では遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年10月、同人から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った12月9日に調査を開始した。

#### 15. 米本辺田台遺跡 b地点

平成25年11月、加茂秀男氏から八千代市米本字辺田台1551番6に個人住宅建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であるが、現況は宅地であり、近隣の畑地では遺物の散布が確認されなかった。そのため、市教委は11月28日、当該地に試掘を行い、その結果、溝状の遺構を検出したため、法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

同年11月、同人から当初の開発区域の一部に限定して、法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った12月24日に調査を開始した。

#### 16. 道地遺跡 j 地点

平成25年11月、平澤正幸氏から八千代市平戸字西ノ上287番7に個人住宅建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地であったが、近隣の畑地では遺物の散布が確認された。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

平成26年1月、同人から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った同年1月16日に調査を開始した。

#### 17. 稲荷前遺跡 e 地点

平成26年2月、広島建設株式会社から八千代市上高野字上谷津台1119-16に戸建住宅建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地であったが、近隣の畑地では遺物の散布が確認された。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

平成26年2月、事業者主体者となった谷地洋祐氏から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った同年2月24日に調査を開始した。

#### 18. 東郷久保遺跡 a 地点

平成25年11月、島田愼一氏から八千代市島田台字鼠坂816番4、6に店舗建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地の一部は周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地であったが、近隣の畑地では遺物の散布が確認されていた。そのため、市教委は法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

平成26年1月、同人から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った同年2月27日に調査を開始した。

#### 19. 雷遺跡 c 地点

平成25年12月、清宮利春氏から八千代市米本字鳥ノ塚2435番1、4に太陽光発電設備建設工事をするため、確認依頼が市教委に提出された。確認依頼地の一部は、周知の埋蔵文化財包蔵地の区域内であり、現況は荒蕪地及び畑地であったが、区域内の畑地では遺物の散布が確認され、また、近隣の調査でも遺構・遺物が検出されていた。当該地の北側部分は、昭和59年、試掘の結果、遺構等の検出がなかったため、埋蔵文化財が所在しないと判断されていた。そのため、市教委は当該地の南側の区域について、法第93条に基づく届け出、及び、その取扱いについての協議が必要である旨を回答した。関係者との協議において、事業継続の意向により、確認調査を行うことを合意した。

平成26年3月、同人から法第93条の届出が提出された。市教委は準備の整った3月13日に調査を開始した。



第1図 平成25年度 市内遺跡調査地点位置図

1. 上谷津台南遺跡 h地点
2. 平作遺跡 a地点
3. 平次遺跡 d地点
4. 川崎山遺跡 s地点
5. 高津跡跡 d地点
6. 勝田大作遺跡 d地点
7. 白幡前遺跡 d地点
8. 小坂橋遺跡 g地点
9. 小坂橋遺跡 h地点
10. 小坂橋遺跡 i地点
11. 高津新山遺跡 b地点
12. 高津新山遺跡 c地点
13. 内込遺跡 c地点
14. 草場台古墳 c地点
15. 米木辺台遺跡 b地点
16. 道地遺跡 j地点
17. 稲町前遺跡 e地点
18. 東塚久保遺跡 a地点
19. 雷遺跡 c地点

## II 各調査の概要

### 1. 上谷津台南遺跡 h 地点

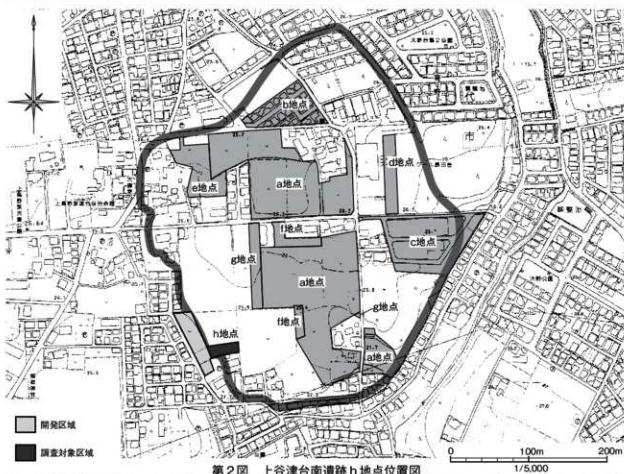
#### 遺跡の立地と概要

上谷津台南遺跡は、市域の南東部の上高野地区に所在する。佐倉市との境を流れる小竹川の上流、上谷津の左岸の標高25m前後の台地平坦面に立地する。遺跡の西側に小さな谷津が入り遺跡を区分している。本跡は過去7回調査が行われている。下表のとおり、過去の調査では、縄文時代の落とし穴が散発的に検出されているが、住居や建物などの集落に関する遺構は検出されていない。また、出土遺物も縄文時代、早期・中期・後期のほか、若干の土師器が検出されているのみである。

今回の開発区域は台地平坦面と遺跡西側に入り込む小谷津部分にかかっており、平坦部分、420㎡が埋蔵文化財包蔵地と判断され、調査対象とされた。この調査対象となったh地点は遺跡の南西端に位置する。

第1表 上谷津台南遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	3,286-32,200 54	確認 本調査	陥穴2、土坑2、溝1	縄文土器、磨製石斧、石鏃 奈良・平安時代 土師器	市教委	H7.12	市内188
b	261-3,613.29 下層 28-3,613.30	確認	なし	縄文土器 (加賀利B式)	市教委	H9.3	市内188
c	936-6,035 下層 144-6,035	確認	なし	縄文土器 (早期、中期、後期)	市教委	H11.9	市内182
d	224-1,527 38	確認 本調査	陥穴2	なし	市教委	H12.6	市内183
e	324-2,892	確認	なし	縄文土器 (後期)	市教委	H17.6	市内188
f	70-655	確認	なし	縄文土器	市教委	H22.6	市内1823
g	163-1,672.24	確認	なし	縄文土器	市教委	H23.5	市内1824



### 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に5m方眼を組み、5m方眼単位に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面を人力により確認後、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成25年5月2日から5月9日まで行われた。2日木曜日、調査区の設定、人力での掘削を行った。7日火曜日、土層計測、遺構検出作業。B-4トレンチでハードロームまで掘削し、下層調査実施。8日水曜日土層分析計測写真撮影。埋め戻し開始、9日木曜日、埋め戻しが終了し、調査完了した。

### 調査の概要

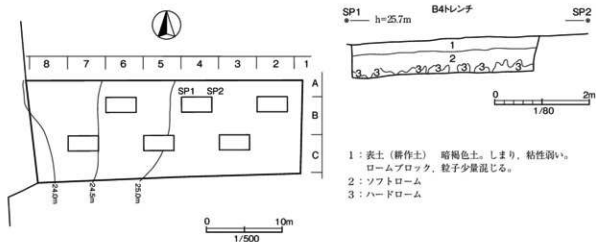
調査区は、遺跡の西端に位置し、小さな谷津に面しているため、西側にわずかに傾斜する地形となっている。

調査区の土層は、現地表面より30cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。その間は耕作土の表土層のみであった。

発掘調査は、調査対象面積 420㎡に対して、トレンチ6か所、掘削面積は48㎡、11.4%の面積を掘削し調査した。この調査の結果、遺構は検出されていない。出土遺物は土師器が3点、その他陶器などが若干、出土した。

### 調査のまとめ

上谷津台南遺跡は、過去7回の調査が行われているが、各地点で濃淡がみられ、縄文時代の陥穴もまばらに検出されている。本跡南西端に位置する今回のh地点では、土師器と陶磁器がわずかながら出土しているが、遺構は検出されず、各時代を通じて極めて希薄な地点であった。



第3図 h地点トレンチ配置図・土層断面図

図版 1



1. 調査風景



2. トレンチ掘削状況



3. トレンチ掘削状況



4. 調査区西端斜面部



5. B4トレンチ東壁土層断面



6. B4トレンチ上層調査



7. B4トレンチ北壁土層断面



8. B4トレンチ下層調査



## 2. 平作遺跡 a地点

### 遺跡の立地と概要

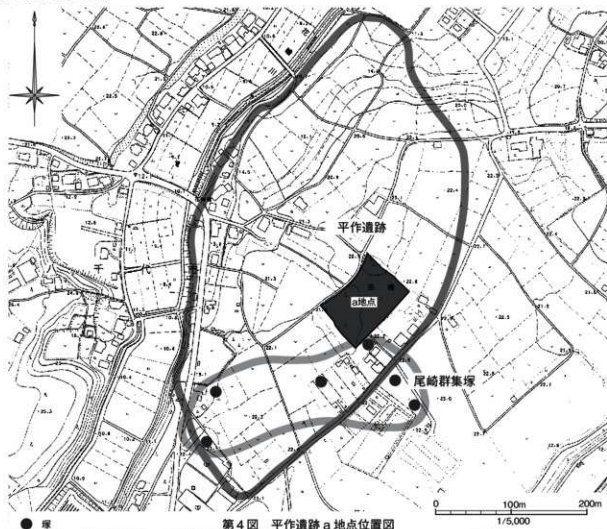
平作遺跡は、市城の西部の大和田新田地区に所在する。桑納川の下流で、南側から流れ込む花輪川の右岸の標高22m前後の台地平坦面に立地する。また、遺跡の一部には河岸段丘の低位段丘面の14m前後の平坦面も含まれている。本跡における調査は、過去には行われてなく、初めての調査であった。そのため、この遺跡に対する情報は、表採によるデータしかなく、それによると、縄文時代中期・後期の縄文土器や奈良・平安時代の土師器が遺物として確認がされている。

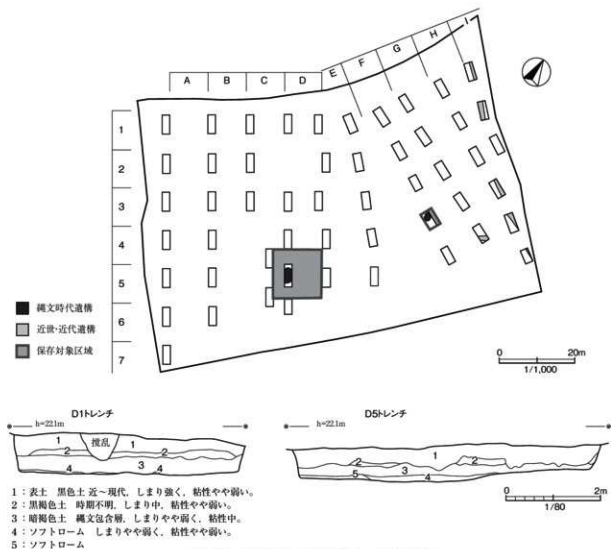
今回の開発区域は上位の段丘面の平坦面にあり、面積5,190㎡であった。調査対象となったa地点は遺跡の中央付近に位置し、花輪川に面する台地縁辺より200mほど台地奥に位置する。開発区域全域が埋蔵文化財包蔵地内で、全域が調査対象となった。

### 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に10m方眼を組み、10m方眼単位に2m×5mのトレンチを設定することを基本とした。しかし、調査区の現状は山林であり、特に雑木が密集する区域では、方眼の設定できなかった。そのため、見通しのいいところに概ね10m間隔でトレンチを設定した。

掘削は遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。





第5図 a地点トレンチ配置図・土層断面図

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成25年6月4日から6月20日まで行われた。トレンチ設定後、重機による掘削を開始。10日曜日、BラインからCラインのトレンチの掘削を行った。11日曜日、D列のトレンチ掘削。D5トレンチで土器の埋設を確認。トレンチの規則的な設定の困難なE列の掘削を開始。13日水曜日、E列からI列のトレンチの測量。17日曜日、トレンチの土層の写真撮影。18日曜日、土層実測。19日水曜日、H列からI列までの精査、遺構等の確認作業。順次、埋め戻しを行い、調査完了。

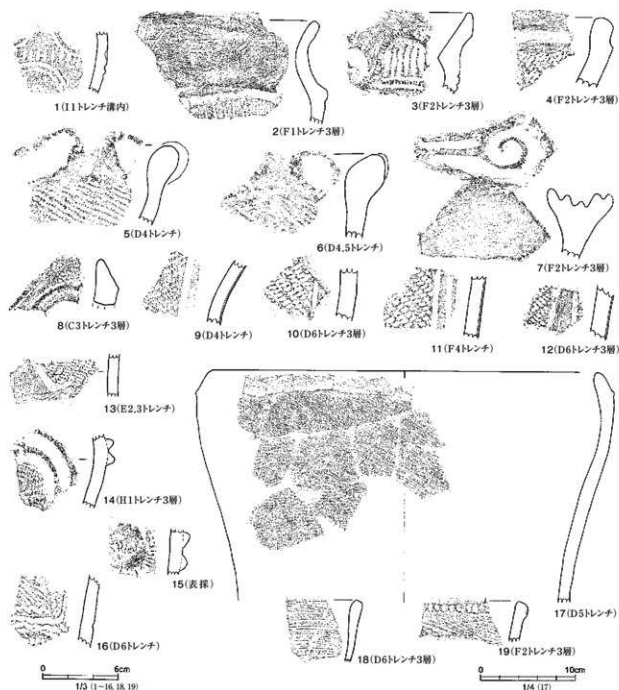
### 調査の概要

調査区は、台地上の平坦な地形に位置する。現状は山林で雑木が密集する。

調査区の土層は、現地表面より70～80cmほど深くで、遺構確認面としたソフトローム層が検出された。確認面までの間には、多くのトレンチで表土層以下2層が確認され、保存状況の良好な堆積がみられた。発掘調査は、調査対象面積 5,190㎡に対して、トレンチ52か所、掘削面積は518㎡、約10.0%の面積を掘削し調査した。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡1軒と土坑1基が検出されている。出土遺物は総数108点あり、ほとんどが縄文土器であった。中には時期不明のものも数点あったが、中期加曾利E期の土器が96点と大





第6図 平作遺跡 a地点出土遺物

半を占めていた。出土地点はD 5、D 6 トレンチからがほとんどで、きわめて限定的な出土状況であった。特に、D 5 トレンチからは住居跡とその覆土上層から完形土器が出土した。

#### 調査のまとめ

平作遺跡が調査対象となったのは本地点が初めてであり、本跡の一端を明らかにすることができた。5,000mを越す区域で、縄文時代中期の住居跡1軒、土坑1基という遺構密度の薄さをうかがわせ、また、加曾利E期のみが検出される特殊な遺跡の一面を示した。結果、184mが保存のための協議対象となり、開発事業者の協力により、現状保存されることとなった。

図版2



1. 調査風景



2. D4トレンチ掘削状況



3. D5トレンチ掘削状況



4. D5トレンチ遺物検出状況



5. F4トレンチ遺構検出状況



6. H4トレンチ遺構検出状況



7. 出土遺物 (1)



8. 出土遺物 (2)

## 3. 平沢遺跡 d 地点

## 遺跡の立地と概要

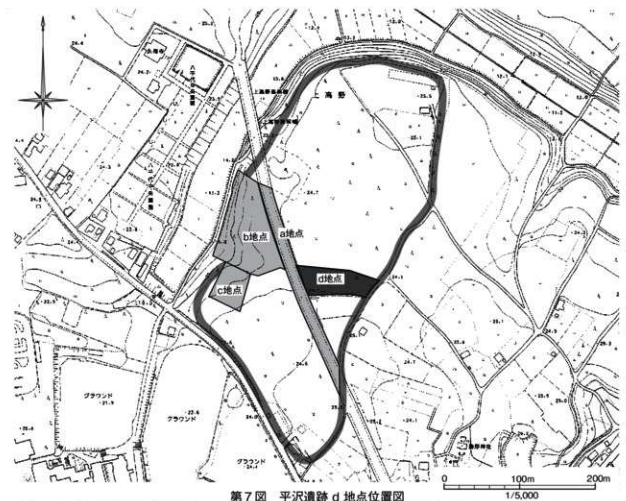
平沢遺跡は、市城の東部の上高野地区に所在する。佐倉市との市境を流れる小竹川の中流域で、西側から流れ込む森下谷津と分岐する西谷津の両右岸の標高 24 m 前後の台地平坦面に立地する。本跡の調査は、過去 3 回行われている。下表のとおり、過去の調査では、弥生時代後期の堅穴住居跡が 16 軒検出されており、集落が形成されている。その他、縄文時代や奈良・平安時代の土坑などもみられるが、散発的で主体とはならない。また、出土遺物も縄文土器のほか、弥生時代後期の土器が主体で、その他、土師器も検出されている。

今回の開発区域は台地平坦面で、3,020㎡の全域が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象となった。この調査対象となった d 地点は遺跡の中央付近に位置する。

第 2 表 平沢遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	436/4,500	確認	弥生時代後期 住居跡 10、 ピット 1 はか	弥生土器	市教委	H7.1	※ 1
	1,250	本調査				H7.4	
b	562/6,000	確認	縄文時代 土坑 2	縄文土器・石器	市教委	H21.9	市内 H22
	1,100	本調査 1	弥生時代 住居跡 4	弥生土器		H22.1	
	640	本調査 2	奈良・平安時代 溝 3、土坑 9	奈良・平安時代 土師器等		H22.4	
c	200/2,000.02	確認	縄文時代 土坑 1 弥生時代後期 住居跡 2 はか	縄文土器、弥生土器	市教委	H23.7	市内 H24

※ 1 [平沢遺跡 a 地点・総合遺跡 a 地点] ※ 2 [平沢遺跡 b 地点]



第 7 図 平沢遺跡 d 地点位置図

### 調査の方法と経過

発掘調査は、方位を基準に、任意に10m方眼を組み、10m方眼単位に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面を人力により確認後、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成25年7月16日から7月23日まで行われた。16日火曜日、器材搬入、調査区の設定。17日水曜日、人力による包含層調査、確認面の検出。18日木曜日、重機による表土除去作業を開始する。19日金曜日、土層分析。遺構検出作業。22日月曜日、土層実測。器材撤収。埋め戻し作業開始。23日火曜日、埋め戻し終了し、調査完了。

### 調査の概要

調査区は、ほぼ舌状台地のほぼ中央部の平坦面に立地する。

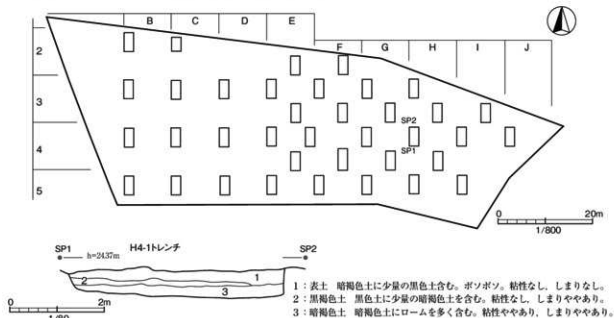
調査区の土層は、現地表面より40cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。その間は表土層以下2層が検出され、ほとんど土砂の移動が見られない。

発掘調査は、調査対象面積 3,200㎡に対して、トレンチ 37 か所、掘削面積は 294㎡、9.2%の面積を掘削し調査した。

調査の結果は、遺構は検出されていない。出土遺物は縄文土器が2点と土師器が1点出土している。

### 調査のまとめ

平沢遺跡は、過去3地点で弥生時代後期の集落を主体に検出されているが、舌状台地の西側の西谷津に面した台地縁辺に沿って検出されている。そのため、今回調査対象となった台地中央に位置するd地点には遺構の検出がみられなかったといえる。また、遺物の出土もほとんどなく、遺跡の空白地であった。そのため、本地点の調査は弥生時代の集落の限界を知るうえの成果といえる。



第8図 d地点トレンチ配置図・土層断面図



第9図 平沢遺跡d地点出土遺物

図版3



1. 調査風景



2. トレンチ掘削状況



3. H4トレンチ



4. B2トレンチ土層断面



5. B2トレンチ土層断面



6. 出土遺物

#### 4. 川崎山遺跡 s 地点

##### 遺跡の立地と概要

川崎山遺跡は、市の南部の萱田地区に所在する。新川の中流域で、新川に面する左岸の標高24m前後の舌状台地の平坦面に立地する。

本跡は、過去18回調査が行われている。次表のとおり、過去の調査では、縄文時代の落とし穴や弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の竪穴住居跡が数多く、重層的に検出されている。

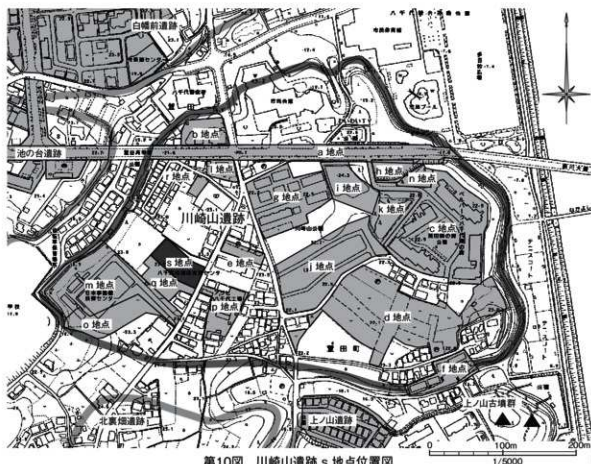
今回の開発区域は遺跡の西側の台地平坦面にあり、開発区域2,263.02㎡の全域が埋藏文化財包蔵地と判断され、調査対象となった。この調査対象となったs地点は遺跡の西側、遺跡を区分する池の谷津から50mほど台地奥に位置する。

##### 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に10m方眼を組み、10m方眼単位に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面を人力により確認後、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

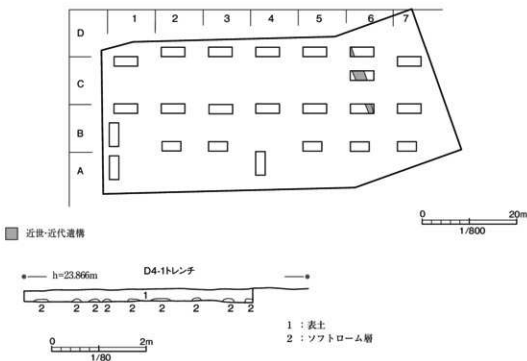
調査は、平成25年8月6日から8月12日まで行われた。6日火曜日、器材搬入、調査区の設定。人力による掘削開始。7日水曜日、重機による表土除去を開始。8日木曜日、重機による表土除去。9日金曜日、遺構検出作業。12日月曜日、埋め戻し作業。器材撤収。調査完了。



第3表 川崎山遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査経緯	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	90.000	確認 本調査	弥生時代 住居跡4 古墳時代 住居跡3ほか	弥生土器 古墳時代土師器、瀬石製土、白瓦、勾玉2、 黒玉4ほか	調査団	S54.3 S54.5	※1
b	1.350	確認	縄文時代早期 陥穴1	弥生土器	市教委	H3.11	市内H3
c	1,720/15,614	確認	旧石器時代 エユニット1	旧石器時代 剥片	市教委	H5.9	市内H5
	10,000	本調査	弥生時代後期 住居跡25 古墳時代前 - 住居跡25	縄文土器 (早期-後期) 弥生土器 (後期) 古墳時代後期 - 奈良平安時代土師器、須恵器ほか	調査会	H6.4	※2
	468	本調査	奈良・平安時代 住居跡2ほか				
d	1,210/9,400	確認	弥生時代後期 住居跡5	縄文土器 (早期、前期、晩期)	市教委	H9.1	市内H9
	790/5,280	確認	古墳時代前期 住居跡19 中期 住居跡1	弥生土器 (晩期)、石製品、土製品 古墳時代土師器、石製瓦器	市教委	H10.2	
	8,885	本調査	奈良平安時代 住居跡1ほか	奈良平安時代土師器、鉄製品ほか	調査会	H14.5	※3
e	96/929.19	確認	縄文時代 陥穴1	縄文土器 土師器	市教委	H9.9	市内H9
f	209/1,550	確認	平安時代 住居跡2ほか	弥生土器、古墳時代土師器、 平安時代土師器、瓦葺陶器ほか	市教委	H10.8	市内H10
	82	本調査			調査会	H10.11	※4
g	750/7,215 60	確認 本調査	縄文時代 陥穴4	なし	市教委	H11.2	市内H11
h	319/1,498.04	確認	弥生時代後期 住居跡3 古墳時代中期 住居跡 (工房跡) 2 ほか	縄文土器 (中期)、弥生土器、古墳時代中期土師器、 石製陶器ほか	市教委	H11.4	市内H12
	906	本調査			調査会	H11.5	※5
i	480/2,982.31	確認	なし	なし	市教委	H11.8	市内H12
j	873.5/9,483.86 53.50	確認 本調査	縄文時代 陥穴伏土壇3 近世以降 溝3	なし	市教委	H11.10	※6
k	329/2,329.50	確認	縄文時代 土壇5	弥生土器	市教委	H18.3	市内H20
	170	本調査	弥生時代 住居跡1ほか	奈良・平安時代土師器	市教委	H18.4	
l	105/1,051	確認	近世以降 溝状遺構3	縄文土器、古墳時代土師器	市教委	H18.6	市内H19
m	793/9,791.91	確認	縄文時代 住居跡4、陥穴1	縄文土器、弥生土器	市教委	H19.3	※8
	1,290	本調査	弥生時代 住居跡1、土壇4ほか	奈良平安時代土師器ほか			
n	126/1,178.78	確認	縄文時代 陥穴1	縄文土器、弥生土器	市教委	H19.4	市内H20
	305	本調査	弥生時代後期 住居跡2 古墳時代中期 住居跡2ほか	古墳時代中期土師器、石製陶器	市教委	H20.7	
o	264/3,569	確認	なし	縄文土器	市教委	H20.7	市内H21
p	250/2,543.81 下跡 5/2,543.81	確認	なし	縄文土器	市教委	H20.8	市内H24
q	190/1,885.77	確認	縄文時代 陥穴1ほか	縄文土器 土師器 ほか	市教委	H24.3	市内H24
r	20/200	確認	なし	古墳時代土師器	市教委	H24.6	市内H25

※1「葦田町川崎山遺跡」※2「川崎山遺跡」※3「川崎山遺跡d地点」※4「川崎山遺跡-f地点」※5「川崎山遺跡-h地点」※6「公共事業関連遺跡発掘調査報告書 2003」※7「不特定遺跡発掘調査報告書 V」※8「川崎山遺跡m地点発掘調査報告書」※9「川崎山h地点発掘調査報告書」



第11図 s地点トレンチ配置図・土層断面図

## 調査の概要

調査区の土層は、現地表面より20cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。その間は耕作土である表土層のみであった。発掘調査は、調査対象面積2,263.02㎡に対して、トレンチ23か所、掘削面積は220㎡、9.7%の面積を掘削し調査した。

調査の結果、遺構は検出されていない。出土遺物は縄文土器が8点、古墳時代土師器20点、須恵器が1点、その他陶磁器など5点が出土している。

## 調査のまとめ

川崎山遺跡では、過去18回の調査が行われており、一つの遺跡としては最多といえる。その結果、旧石器時代から平安時代まで遺跡が重層的に検出されている。s地点は池の谷津からも離れているため、遺構の検出は見られなかった。また、出土遺物も散発的なものであった。



第12図 川崎山遺跡 s 地点出土遺物

## 図版 4



1. 調査風景



2. 調査風景



3. D4-1トレンチ土層



4. 出土遺物



## 5. 高津館跡 d 地点

## 遺跡の立地と概要

高津館跡は、市の南部の高津地区に所在する。新川の上流域で、西側から流れ込む高津川上流の左岸、標高17mから20m前後の台地上に立地する。本跡の調査は、過去3回行われている。下表のとおり、過去の調査では、縄文土器のほか、土師器も若干検出されている。a地点で館跡に関連する土塁と堀が検出されているが、部分的な検出で、遺跡全体の姿は明らかになっていない。

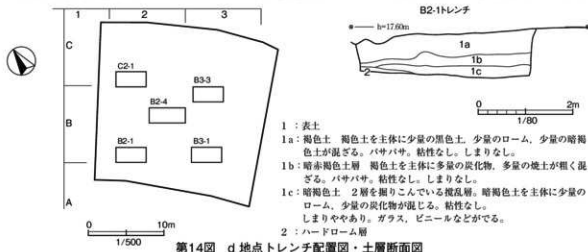
第4表 高津館跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査時期	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	1,335.66		土塁 堀	なし	市教委	S56.1	※1
b	136-1207.72	確認	なし	なし	市教委	H13.4	※2
c	38-330	確認	なし	縄文土器(加曾利正式) 土師器	市教委	H13.4	市内田4

※1「八十代の歴史 資料編第4巻 古代・中世」 ※2「高津館跡d地点・本報告遺跡」



第13図 高津館跡 d 地点位置図



第14図 d 地点トレンチ配置図・土層断面図

今回の開発区域は、台地先端部の平坦面 500m の全域が埋蔵文化財包蔵地として調査対象とされた。この調査対象となった d 地点は遺跡の北端部に位置する。

#### 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、10 m 方眼を組み、10 m 方眼単位に 2 m × 4 m のトレンチを設定した。掘削は、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成 25 年 9 月 9 日から 9 月 13 日まで行われた。9 日月曜日、器材搬入、調査区の設定。10 日火曜日、人力により掘削し、確認面を検出。11 日水曜日、重機による表土除去作業を行う。12 日木曜日、土層調査。遺構検出作業。13 日金曜日、埋め戻し作業。器材を撤収し、調査を完了した。

#### 調査の概要

調査区の土層は、B2-1 トレンチで観察するとトレンチの北西端で現地表面より 60cm ほどでハードローム層が検出された。地表面からその間は埋め土がみられ掘削削平が行われていたことが推測された。

発掘調査は、調査対象面積 500㎡ に対して、トレンチ 5 か所、掘削面積は 42㎡、掘削し調査した。調査の結果、遺構は検出されなかった。また、遺物は土師器 1 点のほか、近世の陶磁器がわずかに確認されている。

#### 調査のまとめ

高津館跡の調査は、過去 3 回行われているが、館の全体像を明らかにすることはできていない。今回の d 地点では、相当の攪乱を受けており、遺構の検出はみられなかった。遺物はわずかに陶磁器が検出された。

#### 図版 5



1. 調査風景



2. 発掘調査状況



3. B2-1 トレンチ検出状況



4. B2-1 トレンチ土層断面

## 6. 勝田大作遺跡 d 地点

## 遺跡の立地と概要

勝田大作遺跡は、市域の南部の勝田地区に所在する。新川の上流、勝田川の右岸の標高24m前後の台地平坦面に立地する。本跡は過去3回調査が行われている。下表のとおり、過去の調査では、遺跡北端で古墳時代の住居跡などが検出されているが、そのほかの地域では遺構が検出されていない。

今回の開発区域は台地平坦面で、全域354.53㎡が埋蔵文化財包蔵地として調査対象とされた。この調査対象となったd地点は遺跡の中央に位置する。

第5表 勝田大作遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	900.6168.02	確認	古墳時代、前期住居跡6、後期3 奈良・平安時代住居跡2ほか	縄文土器（中期、後期、晩期） 奈良土器 古墳時代（土師器） 奈良・平安時代（土師器・須恵器）	調査会	560.8	甲1
	2300	本調査				560.8	
b	280.2975	確認	なし	奈良・平安時代土師器	市教委	1124.4	市内1025
c	216.2992.84	確認	なし	縄文土器 奈良・平安時代土師器	市教委	1124.12	

※1「勝田大作遺跡」

## 調査の方法と経過

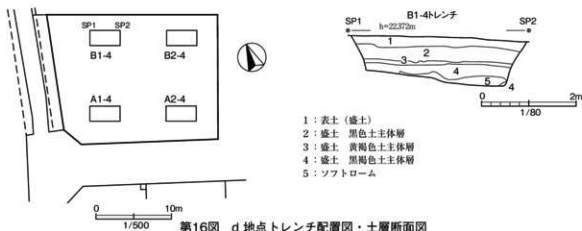
発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に10m方眼を組み、方眼単位に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面を人力により確認後、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の確認作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成25年9月19日から9月25日まで行われた。19日木曜日、調査区の設定、人力での掘削を開始。20日金曜日、人力掘削。23日土曜日、重機による掘削。24日火曜日、土層調査。25日水曜日埋め戻しを行い、機材を撤収し、調査を完了した。



第15図 勝田大作遺跡 d 地点位置図



## 調査の概要

調査区の土層は、現地表面より、80cmで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。その間を3層に分層されたが、自然堆積ではなく人為的な盛土であった。

発掘調査は、調査対象面積 354.53m<sup>2</sup>に対して、トレンチ4か所、掘削面積は32m<sup>2</sup>を掘削し調査した。

調査の結果は、遺構は検出されず、遺物は奈良・平安時代の土師器が2点出土している。

## 調査のまとめ

勝田大作遺跡は、北端部で古墳時代と奈良・平安時代の集落の一部が検出されているが、今回のc地点を含め、遺跡中央部で遺構の検出がみられていない。また、遺物の出土も土師器などがわずかで、遺跡中の空白地帯とみられる。勝田川に面する複数の河岸段丘からなる本跡の一端を明らかにした。

## 図版6



1. 調査風景



2. 発掘調査状況



3. C2-1トレンチ土層断面



4. B2-4トレンチ掘削状況

## 7. 白幡前遺跡 d地点

## 遺跡の立地と概要

白幡前遺跡は、市域の中央の萱田地区に所在する。新川の中流域で、新川に面する左岸の標高24m前後の台地の平坦面に立地する。遺跡の範囲には河岸段丘面の下位面も含まれている。

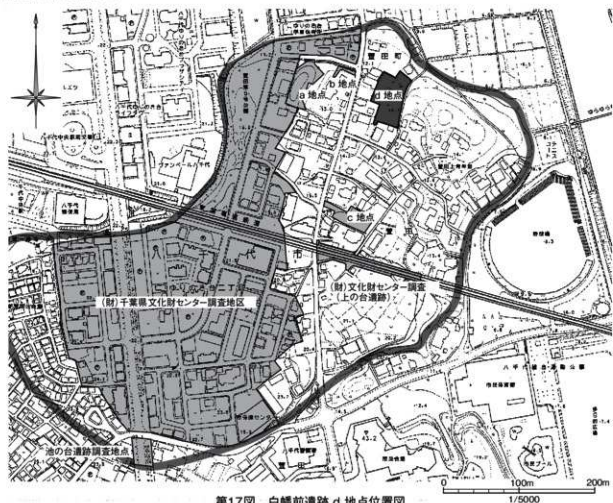
本跡は過去5回調査が行われている。表のとおり、過去の調査では、奈良・平安時代の大規模な集落が検出されている。

今回の開発区域は遺跡の北東側の下位段丘面と上位の段丘面にまたがった区域に立地しているが、開発区域2,306㎡全域が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。この調査対象となったd地点は遺跡北部に位置する。

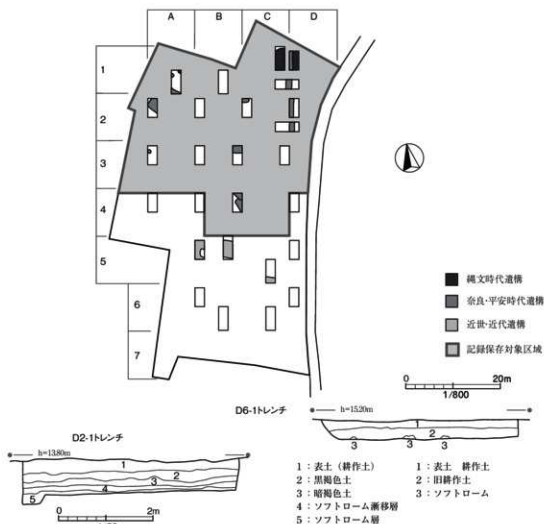
第6表 白幡前遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種類	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	117.6・1,697.97	確認	平安時代 住居跡 18、掘立柱建物跡 5、土坑・ピット 30、井戸区遺構 2、中井 溝状遺構 1	縄文土器(中層智弁川式) 弥生土器(後期) 平安時代土師器 須恵器 陶器	市教委	H13. 2	
	1,697.97	本調査			調査会	H13. 5	
b	204.214	確認	奈良・平安時代土坑 4ほか	奈良・平安時代土師器 須恵器片	市教委	H13. 9	市内H14
c	91,804.01	確認	平安時代 住居跡 1	奈良平安時代 土師器・須恵器 H 鉄片	市教委	H19.10	市内H20
	311	本調査	平安時代 住居跡 3、土坑 12 溝 1	中・近世陶器 陶器等	市教委	H20. 3	※1
文七	94,026	本調査	弥生時代後期住居跡 17、古墳時代後期住居跡 5、奈良平安時代 住居跡 279、掘立柱建物 150ほか	旧石器時代石器、弥生土器、古墳時代土師器 奈良平安時代土師器、須恵器	(財)千葉県文化財センター	S54.8~ S63.9	※2
	2,027	本調査	奈良・平安時代 住居 14ほか	奈良平安時代土師器、須恵器	同上	H2.12	※3
上の台地の台	675	本調査	平安時代 住居跡 2ほか	平安時代土師器ほか	市教委	S60.5	※4

※1「白幡前遺跡・地点」 ※2「八十年代市白幡前遺跡・萱田地区埋蔵文化財調査報告書V」 ※3「八十年代市沖原遺跡・上の台遺跡ほか」 ※4「上の台遺跡・都市計画道路3・3・7号掘造成工事に先行する緊急調査」



第17図 白幡前遺跡 d地点位置図



第18図 d地点トレンチ配置図・土層断面図

### 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に10m方眼を組み、方眼単位に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面を人力により確認後、ルーム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測し用いた。

調査は、平成25年9月30日から10月11日まで行われた。

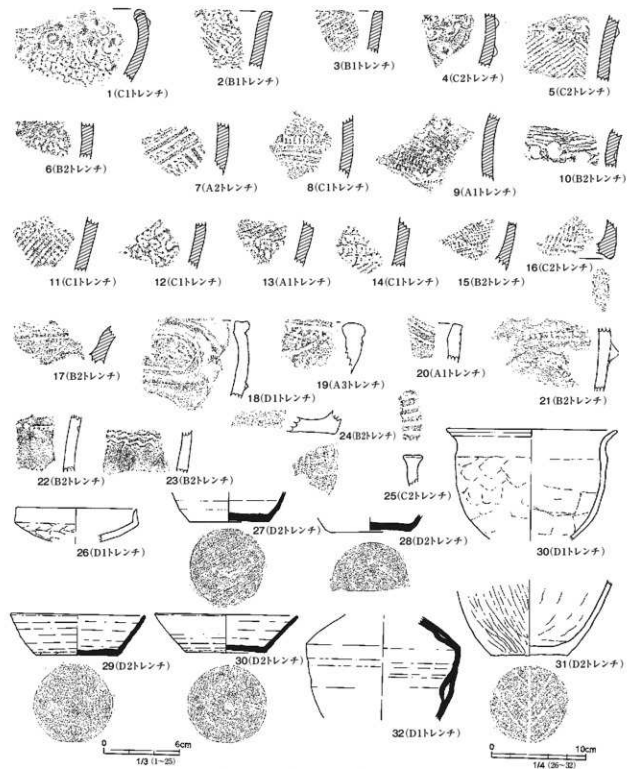
### 調査の概要

調査区は、二つの段丘面にまたがって所在しているため、北側の段丘面と南側の段丘面とで1m以上の高低差がみられる。北側のやや高い段丘面の土層では、遺構確認面となるソフトロームまで40cmほどと浅く、低位の段丘面の土層は約70cmと厚い堆積がみられた。

発掘調査は、調査対象面積2,306㎡に対して、トレンチ26か所、掘削面積は226㎡、掘削し調査した。調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡5軒、土坑2基、溝状遺構1条、近世・近代の溝1条が検出されている。出土遺物は、縄文土器では前期の関山式土器から黒浜式土器が低位段丘面の北側先端部を中心に82点ほど出土している。また、中期阿玉台式土器も同様に北側先端部で20点ほど出土している。奈良・平安時代の土師器はD1トレンチで180点出土したのを中心に総数345点、須恵器41点出土した。

調査のまとめ

白幡前遺跡の上位段丘面では奈良・平安時代の集落を中心として遺跡が展開するが、新川に面する中低位の段丘面に位置する今回のd地点では、縄文時代前期関山期等及び中期阿玉台期の遺物包含層の展開がみられ、また、奈良・平安時代の集落の一部が確認された。結果、低位の段丘面にあたる1,340㎡が保存のための協議対象となった。



第19図 白幡前遺跡d地点出土遺物

図版7



1. 発掘調査状況



2. D2トレンチ土層断面



3. B4東側トレンチ遺構検出状況



4. C1トレンチ遺構検出状況



5. 出土遺物（縄文土器）



6. 出土遺物（土師器・須恵器）

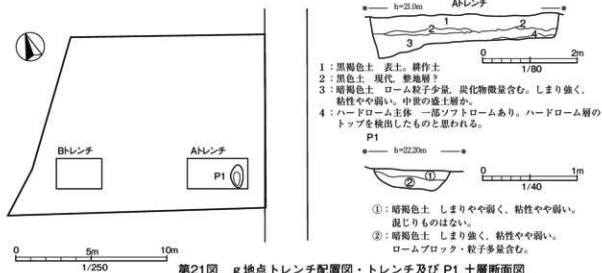


## 8. 小板橋遺跡 g 地点

## 遺跡の立地と概要

小板橋遺跡は、市域の南部の大和田地区に所在する。新川の上流域で、新川に面する左岸の標高 23 m 前後の台地の平坦面に立地する。

本跡の調査は、過去 6 回行われている。次表 (30 p) のとおり、過去の調査では、a, b 地点を中心に、古墳時代中期の集落の一部が検出されている。この時期の遺構には石製模造品が多く出土しているのが本跡の特徴となっていた。また、最近では、d 地点で明らかになったように、中世の地下式坑や台地整形遺構が検出され、本跡の新たな一面も明らかになりつつある。開発区域は台地平坦面で、165m<sup>2</sup>の全域が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。調査対象となった g 地点は遺跡の南東部に位置する。



### 調査の方法と経過

発掘調査は、任意に2m幅のトレンチを設定した。掘削は、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。調査は、平成25年10月17日から10月21日まで行われた。17日木曜日、器材搬入、トレンチの設定。重機による表土剥ぎ。清掃確認作業。18日金曜日、清掃確認作業。土層確認、写真・実測。21日土曜日、重機による埋め戻し作業。器材を撤収し、調査を完了した。

### 調査の概要

発掘調査は、調査対象面積165m<sup>2</sup>に対して、トレンチ2か所、掘削面積は14m<sup>2</sup>を掘削し調査した。調査区の土層は、Aトレンチの北西端で現地表面より60cmほどでハードローム層が検出された。地表面からその間は埋め土がみられ、掘削削平が行われていたことが推定された。

調査の結果、遺構としては、近世以降とみられる土坑が1基検出された。また、土層の分析から、ハードロームまで台地全体が削平されている可能性があり、d地点でみられた中世における台地整形遺構の可能性が考えられる。出土遺物では、縄文土器1点、近世のカワラケ2点が出土している。

### 調査のまとめ

小板橋遺跡は古墳時代中期の石製模造品を多く出土する集落の側面と中世の地下式坑や台地整形遺構の検出される一面がある。今回のg地点では縄文土器などわずかな遺物しか出土していないものの、台地整形の可能性のある調査成果を得ることができた。今後、周辺の調査において明らかにされる課題といえる。



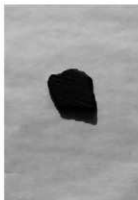
1. 発掘調査状況



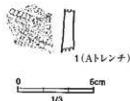
2. Aトレンチ土層断面



3. Bトレンチ掘削状況



4. 出土遺物



第22図 小板橋遺跡  
g地点出土遺物

第7表 小坂橋遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査経緯	遺構	遺物	調査機関	調査年月	調査者
a	5,379.55	本調査	古墳時代中期 住居跡1、溝1 跡、庭跡 住居跡6、ビット1 時期不明住居跡_2	古墳時代 土師器、須恵器、石製模造品(白玉、 黒孔灼板、銅製品、鉄線串、勾玉)、土玉4ほか	調査会	S55.7	
b	394.3,400	確認	古墳時代中期 住居跡2、土坑4	古墳時代 土師器、須恵器(鎌)、土玉・黒石・白玉・ 白玉土製品・滑石片等	調査会	S59.8	※1
	1,536	本調査				S59.9	
c	225,1,514	確認	古墳時代 溝状遺構3	古墳時代土師器	市教委	H17.3	
	107	本調査					
d	170,1,846,80	確認	縄文時代 掘穴6 古墳時代 住居跡1、土坑1 中世 地下式塚11、土坑15K 古墳時代遺構	古墳時代 土師器 中世 陶器・板碑	市教委	H23.8	市内H24
	1,177	本調査					
e	30-233	確認	なし	古墳時代 土師器	市教委	H24.3	※3
f	30,277,28	確認	縄文時代 掘穴1	古墳-須恵土器	市教委	H24.9	市内H25

※1「小坂橋遺跡」→「地学研究所文化財発掘調査報告書」 ※2「小坂橋遺跡d地点」 ※3「公共事業関連遺跡発掘調査報告書」

## 9. 小坂橋遺跡 h 地点

### 遺跡の立地と概要

今回の開発区域は台地平坦面で、145,94㎡の全域が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。調査対象となったh地点は遺跡の中央部に位置する。

### 調査の方法と経過

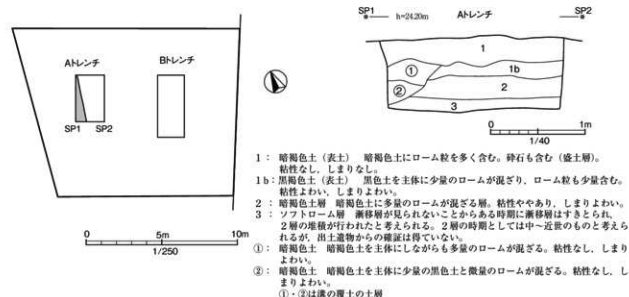
発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に2m幅のトレンチを設定した。掘削は、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成26年1月21日から1月22日まで行われた。21日火曜日、器材搬入、トレンチの設定。重機による表土剥ぎ。遺構検出作業。22日水曜日、土層観察、実測、写真。Aトレンチサブトレンチ掘削。23日木曜日、重機により埋め戻し作業。器材を撤収し、調査を完了した。

### 調査の概要

調査区の土層は、Aトレンチで観察するとトレンチの北西端で現地表面より70cmほどでソフトローム層が検出されている。地表面での土の移動は確認されるが、ローム面まで自然堆積が残存している。



第23図 h地点トレンチ配置図・土層断面図

- 1：暗褐色土（表土） 暗褐色土にローム粒を多く含む。砕石も含む（盛土層）。粘性なし、しまりなし。
- 1b：黒褐色土（表土） 黒色土を主体に少量のロームが混ざり、ローム粒も少量含む。粘性よわい、しまりよわい。
- 2：暗褐色土層 暗褐色土に多量のロームが混ざる層。粘性ややあり、しまりよわい。
- 3：ソフトローム層 漸移層が見られないことからある時期に漸移層はすきとられ、2層の堆積が行われたと考えられる。2層の時期としては中～近世のものと考えられるが、出土遺物からの確認は得ていない。
- ①：暗褐色土 暗褐色土を主体にしながらも多量のロームが混ざる。粘性なし、しまりよわい。
- ②：暗褐色土 暗褐色土を主体に少量の黒色土と微量のロームが混ざる。粘性なし、しまりよわい。
- ①・②は溝の覆土の土層

発掘調査は、調査対象面積 145.94㎡に対して、トレンチ2か所、掘削面積は13.2㎡掘削し調査した。

発掘調査の結果、遺構として、近世以降の溝状遺構が1条検出された。また、遺物は古墳時代の土師器が1点出土した。

#### 調査のまとめ

今回のh地点では、遺構・遺物もほとんど検出されていない。また、ソフトローム面まで70cmという深さで確認され、中世における台地整形に関すること、古墳時代の住居跡や土師器の出土もなく、古墳時代の集落も展開していないことなど、小坂橋遺跡における遺跡の展開の一面を知ることができた。

#### 図版9



1. 発掘調査状況



2. Aトレンチ検出状況



3. Aトレンチ土層断面



4. Bトレンチ土層断面



5. Bトレンチ状況

## 10. 小板橋遺跡 i 地点

## 遺跡の立地と概要

今回の開発区域は台地平坦面で、405.49㎡の全域が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。調査対象となったi地点は包蔵地範囲の南端に位置する。

## 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は、人力により遺構確認面の検出作業を行い、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成26年2月14日から2月19日まで行われた。14日金曜日、雪のため中止。17日曜日、器材搬入、トレンチの設定。人力による掘削作業。18日火曜日、重機による表土剥ぎ。遺構検出作業。土層観察、実測、写真。19日水曜日、重機により埋め戻し作業。器材撤収し、調査完了した。

## 調査の概要

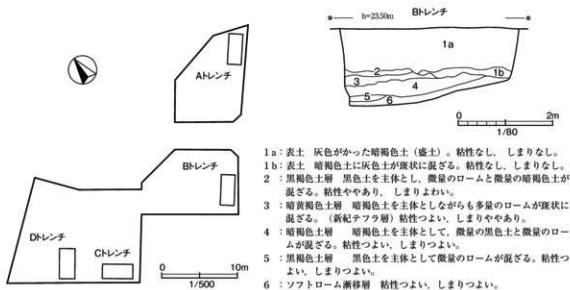
発掘調査は、調査対象面積 405.49㎡に対して、トレンチ4か所、掘削面積は32㎡掘削し調査した。

調査区の土層は、Bトレンチで観察すると、現地表面より1mから1m50cmほどでソフトローム層が検出されている。おそらく本来の地形は傾斜地であった可能性がある。表土層に盛土を行い、地表面を平坦にしたものと思われる。

遺構は検出されなかった。また、遺物の出土もみられなかった。

## 調査のまとめ

今回のi地点では、遺構も遺物も全く検出されなかった。本跡の遺跡の展開の一面を知ることができた。



第24図 i地点トレンチ配置図・土層断面図

図版10



1. 発掘調査状況



2. Aトレンチ検出状況



3. Bトレンチ検出状況



4. Bトレンチ土層断面



5. Cトレンチ検出状況



6. Dトレンチ検出状況

## 11. 高津新山遺跡 b 地点

## 遺跡の立地と概要

高津新山遺跡は、市城南部の高津地区に所在する。新川の上流域、大和田付近で、西側から流れ込む高津川上流の右岸、標高 15 m から 22 m の河岸段丘上に立地する。

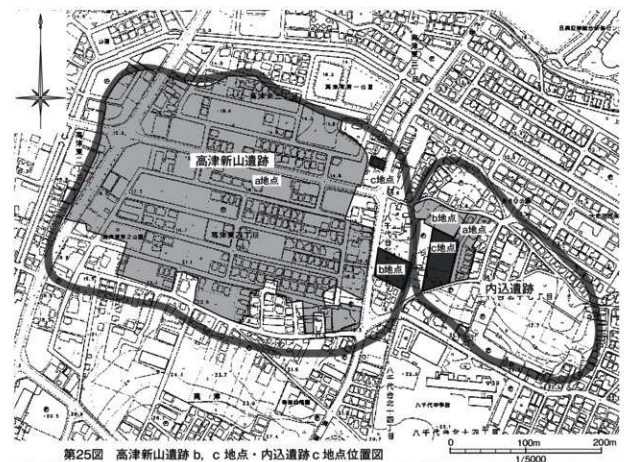
本跡の調査は、過去 1 回行われている。この調査は本跡の大半を占めていた。下表のとおり、a 地点の調査では、古墳時代から奈良・平安時代の集落が検出されている。また、中世における地下式坑もみられた。出土遺物では、旧石器時代のナイフ形石器をはじめ、縄文土器のほか、古墳時代から奈良・平安時代に至る土師器も多数検出されている。各時代を通じて人々の痕跡がみられた。

今回の開発区域は、台地中央部の傾斜地で、1,592.37m<sup>2</sup>の全域が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。この調査対象となった b 地点は遺跡の東端に位置する。

第 8 表 高津新山遺跡の調査

地点	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	8,180/50,000	確認	竪穴住居跡 土坑 竪立柱建物跡	旧石器時代 石器 (ナイフ形石器 ポイントス タレーパー) 縄文式土器 (前期-晩期) 土師器	市教委	S56.12	※ 1
	3,779/26,800	確認	竪穴住居 10 軒 土坑 70 基 地下式塚穴 1 基 溝状遺構 21 条	旧石器時代 潤片 縄文時代 石器 土器 奈良・平安時代 土師器 須恵器	市教委	S57.12	※ 2
	3,350/20,000	確認	住居跡 15 軒 土坑 36 基 溝状遺構 3 条	縄文土器 土師器 須恵器	市教委	S58.7	※ 3
	79,000	本調査	竪穴住居跡 竪立柱建物跡 土坑	縄文土器 土師器 須恵器 石器 (石鏃 石鏃 骨) 勾玉 鉄製品 銅片	調査会	S60.4 ~ H11.3	

※ 1「高津新山遺跡-昭和 56 年度確認調査の概要-」 ※ 2「高津新山遺跡-昭和 57 年度確認調査の概要-」 ※ 3「高津新山遺跡-昭和 58 年度確認調査の概要-」



## 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、10 m方眼を組み、方眼単位に2 m×4 mのトレンチを設定した。掘削は、人力により遺構確認面及び包含層の確認作業を行った。その後、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成25年11月13日から11月21日まで行われた。13日水曜日、器材搬入。調査区、トレンチの設定。14日木曜日、人力により掘削。確認面を検出。15日金曜日、重機により表土除去を行う。18日土曜日、重機による表土剥ぎ。土層調査。遺構検出作業。19日火曜日、遺構検出作業。20日水曜日、F4-1グリッドにサブトレンチ掘削。重機による埋め戻し。器材撤収。21日木曜日、埋め戻しが終了し、調査を完了した。

## 調査の概要

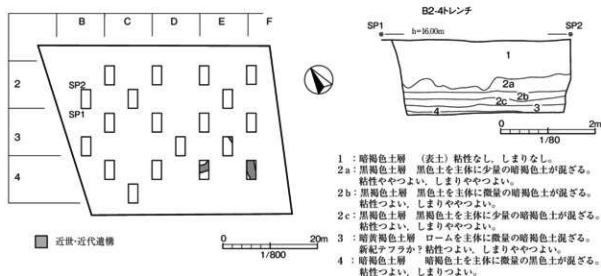
発掘調査は、調査対象面積 1,592.37㎡に対して、トレンチ19か所、掘削面積は152㎡掘削し調査した。

調査区の土層は、B2-4トレンチで観察すると現地表面より1 m 60cmほど掘削したがローム層が検出されなかった。地表面からその間はほぼ自然堆積がみられた。同様に調査区西側のトレンチでは、ローム面まで1 mを超える場所が多く、ローム面を検出できなかったトレンチもみられた。それに引き換え、東側のトレンチでは20cmから40cmほどでローム面が確認されている。

b地点において、近世以降とみられる溝が2条検出されているが、そのほか遺構は検出されなかった。また、遺物は縄文土器3点、古墳時代から奈良・平安時代の土師器の破片が大小66点、須恵器1点その他陶磁器などがわずかずつ出土している。

## 調査のまとめ

高津新山遺跡は、前回の調査でその大半が明らかになっている。しかし、遺跡の縁辺については明らかでない部分もあり、b地点はそのようなことを明らかにできる地点の一つであった。今回の調査は、隣接する内込遺跡とのほごまで、遺跡の区分に関する成果を得た。



第26図 高津新山遺跡 b地点トレンチ配置図・土層断面図





第27図 高津新山遺跡b地点出土遺物

図版11



## 12. 高津新山遺跡 c地点

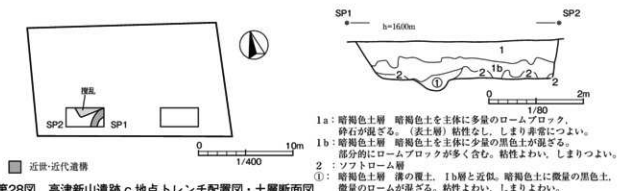
## 遺跡の立地と概要

開発区域は、台地先端部に位置し、下位の河岸段丘面に立地し、229.34㎡の全体が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。この調査対象となったc地点は遺跡の北東端に位置する。

## 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は、人力により遺構確認面及び包含層の確認作業を行い、その後、確認面となるローム上面まで重機により表土を除去した。標高は都市計画図上で調査区近隣の標高の明らかな地点付近を基準に測定することとした。

調査の経過 調査は平成25年11月21日から11月26日まで行われた。21日木曜日、機材搬入。トレンチ設定。人力により掘削開始。22日金曜日、重機による表土剥ぎ。遺構確認作業開始。25日月曜日、土層の分析、写真・実測。26日火曜日、器材撤収。重機による埋め戻しを行い、調査完了。



第28図 高津新山遺跡c地点トレンチ配置図・土層断面図

## 調査の概要

発掘調査は、調査対象面積229.34㎡の内、トレンチ2ヶ所、掘削面積16㎡を調査した。調査区の土層は、現地表面より、70cmで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。表土層は攪乱を受けていたが、確認面は比較的良好に検出された。

調査の結果、調査区において、近世以降とみられる溝状遺構を1条が検出されている。遺物は土師器が4点出土した。

## 調査のまとめ

今回の調査を行ったc地点は、高津新山遺跡の縁辺で高津川に面する低位段丘面の先端部にあたり、本跡の主要な時代の遺物、遺構がほとんどなかったことはこの地点の成果といえる。

## 図版12



1. 発掘調査状況



2. Aトレンチ検出状況

## 13. 内込遺跡 c 地点

## 遺跡の立地と概要

内込遺跡は、市城の南部の八千代台17丁目周辺地区に所在する。新川の上流域で、西側から流れ込む高津川上流の右岸、標高15mから20mの下位の河岸段丘上に立地する。前出の高津新山遺跡の東側に、小さな谷津を挟んで隣接する。

本跡の調査は、過去2地点行われている。下表のとおり、古墳時代後期を中心にした集落が営まれていたことが判明している。出土遺物では、縄文土器も多く出土しているが、古墳時代後期の土師器が主体となる。

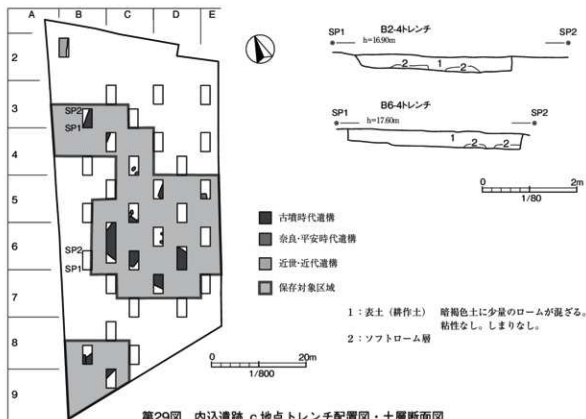
## 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に10m方眼を組み、方眼単位に2m×4mのトレンチを基本に設定した。掘削は人力により遺構確認面及び包含層の確認を行い、その後、遺構確認面であるソフ

第9表 内込遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	305-2340	確認	縄文時代 土坑2 古墳時代 住居跡21、掘立柱建物跡6、土坑32 奈良平安時代 掘立柱建物跡1	縄文時代中期 土器 古墳時代・平安時代 土師器、埴器	市教委 調査会	H16.12	市内109
	2338.30	本調査				H19.6	※1
b	236-2013	確認	古墳時代後期 住居跡4 平安時代 住居跡1、掘立柱建物跡1	縄文時代中期 (阿玉台式) 土器 古墳時代 土師器・埴器 平安時代 土師器・埴器	市教委 市教委 調査会	H13.12	市内104
	650	本調査				H14.2	※2
	850	本調査	縄文時代 陶器1 古墳時代後期 住居跡3 平安時代 住居跡1、掘立柱建物跡1ほか			H14.4	

※1「内込遺跡発掘調査報告書 a 地点」 ※2「内込遺跡発掘調査報告書 b 地点」



トローム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成 25 年 11 月 29 日から 12 月 17 日まで行われた。29 日金曜日、器材搬入。調査区の設定、トレンチの設定。12 月 2 日月曜日、人力での掘削開始。3 日火曜日、人力掘削継続、重機による掘削。4 日水曜日、遺構確認作業。5 日木曜日、土層分析実測・写真撮影。6 日金曜日、土層分析実測・写真撮影。器材撤収。17 日火曜日、埋め戻しが終了し、調査を完了した。

#### 調査の概要

調査区は、遺跡の西端に位置し、隣接する高津新山遺跡に面している。北側に向かってわずかに傾斜する地形となっている。発掘調査は調査対象面積 2,388㎡に対して、トレンチ 33 か所、掘削面積は 275㎡を調査した。

調査区の土層は、現地表面より 30cm から 40cm ほどで遺構確認面とした関東ローム層が検出された。その間は耕作土の表土層のみであった。

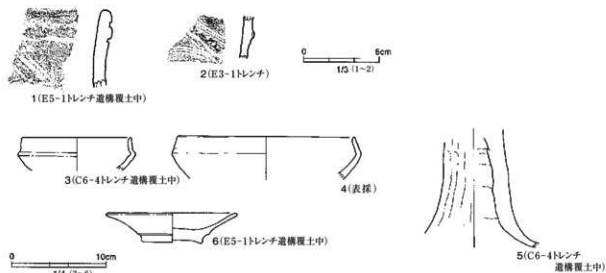
調査の結果、遺構は古墳時代の竪穴住居跡 7 軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡 1 軒、土坑 7 基、近世以降と思われる溝状遺構 1 条が検出された。出土遺物は縄文土器 4 点、古墳時代及び奈良・平安時代の土師器 948 点、須恵器 6 点、陶磁器 32 点など総数 1,015 点出土した。

#### 調査のまとめ

内込遺跡は、過去 2 回の調査地点で、低位の河岸段丘に広がる古墳時代後期の集落の姿が明らかになりつつあった。そして、それらの地点に隣接する今回の c 地点でも同様に、同時期の集落の一端を明らかにすることができたことは大きな成果であった。

集落の詳細は本調査まで待たなければならないが、隣接して行われた高津新山遺跡 b 地点の成果でも明らかのように、小さな谷津が遺跡を区分することに大きな役割を持っていることは成果の一つであった。この確認調査の様々な成果は、詳細を明らかにすることが必要であり、多様な分析をもって報告すべき内容を持っている。

調査の結果、938㎡が協議対象となった。



第30図 内込遺跡 c 地点出土遺物

図版13



1. 発掘調査状況



2. 発掘調査状況



3. B2-1トレンチ土層断面



4. B2-4トレンチ検出状況

図版14



1. B6-4トレンチ検出状況



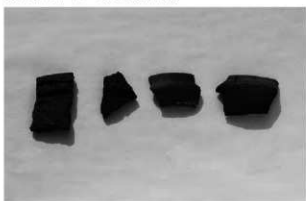
2. C6-1.2トレンチ遺構検出状況



3. D5-1トレンチ遺構検出状況



4. C5-4トレンチ遺構検出状況



5. 出土遺物 (1)



6. 出土遺物 (2)



7. 出土遺物 (3)



8. 出土遺物 (3)の墨書

## 14. 堰場台古墳 c 地点

## 遺跡の立地と概要

堰場台古墳は、市域の南部の大和田地区に所在する。新川の上流域で、西側から流れ込む高津川下流の左岸、標高24m前後の台地平坦面に立地する。現在は、住宅地となりわかりにくくなっているが、台地の縁辺部に立地する。

本跡は過去2回調査が行われている。下表のとおり、過去の調査では、a地点で古墳の主体部である箱式石棺の調査が行われ、人骨多数と鉄剣等の副葬品が出土している。また、平成24年に新たに、堰場台遺跡が確認され、発掘調査が行われると、古墳a地点に隣接する区域で古墳周溝が検出され、堰場台古墳のb地点とされた。

今回の開発区域はa地点の南西側に隣接する区域で、218.45㎡が埋蔵文化財包蔵地と判断され、調査対象となった。調査対象となったc地点は遺跡の南端に位置する。

## 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に2m×5mのトレンチを設定した。掘削は、遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成25年12月9日から12月16日まで行われた。9日月曜日、器材搬入、トレンチの設定。

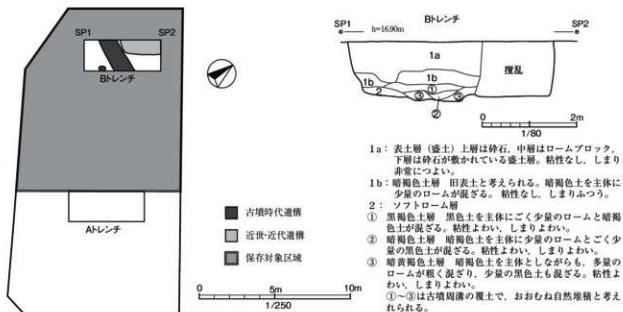
第10表 堰場台古墳の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査期間	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	7	本調査	箱式石棺及び副葬品部分	人骨は127体 鉄剣5 鉄鏃など	市教委	S58.5	※1
堰場台遺跡							
a	729.789627	確認	縄文時代、第6~1基、土坑4基 古墳時代(前期2・前期1・中期1) 奈良・平安時代、遺構1	縄文土器、古墳時代土師器	市教委	H24.12	市内H25
	842.50	本調査	堰場台古墳b地点 古墳周溝1基(後期)		市教委	H25.5	※2

※1「市内由土人骨分析委託報告書」※2「堰場台遺跡」地点



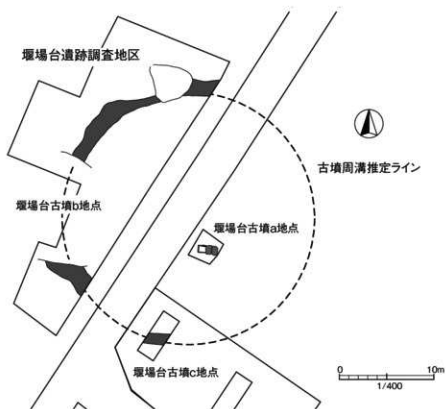
第31図 堰場台古墳 c 地点位置図



第32図 c地点トレンチ配置図・土層断面図



第33図 環場台古墳c地点出土遺物



第34図 環場台古墳 a, b, c 地点位置図



重機による表土除去作業。10日火曜日、遺構検出作業。13日金曜日、埋め戻し作業。16日月曜日、埋め戻し、器材を撤収し、調査を完了した。

### 調査の概要

発掘調査は、調査対象面積 218.45m<sup>2</sup>に対して、トレンチ2か所、掘削面積は20m<sup>2</sup>を掘削し調査した。

調査区の土層は、現地表面より1mほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。表土層以下攪乱や盛土がみられた。

遺構はBとレンチで古墳の周溝の南端部分が検出された。遺物は縄文土器1点、古墳時代の土師器が5点、須恵器1点などが出土している。

### 調査のまとめ

塚場台古墳の発見は、昭和58年の偶然による主体部の検出であった。すでに周辺部が市街地化しておりこの古墳の全貌を明らかにすることは困難と考えていたが、隣接する地点の調査により、古墳の規模が明らかになりつつあった。そして、今回のc地点でも古墳の周溝の一部が検出され、現在の住宅地の地下には、今でも、古墳の一部が保存されていることがわかってきた。今回、周溝からみた場合、直径約27m前後の円墳であることが想定される成果を得た。

調査の結果、119m<sup>2</sup>が保存のための協議対象となり、事業主体者の協力により、保護層を設けて現状保存されることとなった。

### 図版15



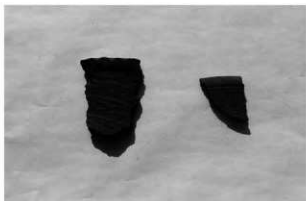
1. 発掘調査状況



2. Bトレンチ遺構検出状況



3. Aトレンチ確認状況



4. 出土遺物

## 15. 米本辺田台遺跡 b地点

## 遺跡の立地と概要

米本辺田台遺跡は、市域の中央部の米本地区に所在する。新川の中流域の右岸の標高25m前後の台地平坦面に立地する。本跡の調査は、過去に1回行われている。下表のとおり、過去の調査では、土坑1基検出されているが、時期等不明であった。また、出土遺物も早期及び中期の縄文土器のほか、古墳時代及び平安時代の土師器も検出されている。

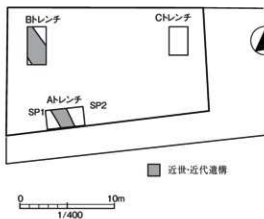
今回の開発区域は台地平坦面で、248㎡の全域が調査対象とされた。この調査対象となったb地点は遺跡の中央付近に位置し、台地の縁から250mほど離れている。

第11表 米本辺田台遺跡の調査

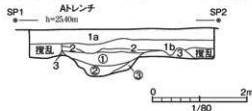
地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	1,500	確認	ピット1基	縄文土器(早期・中期) 古墳時代～平安時代 土師器	市教委	562.9	市内19



第35図 米本辺田台遺跡 b地点位置図



第36図 b地点トレンチ配置図・土層断面図



- 1a: 暗褐色土層 暗褐色土を主体としているが、多量の白色砂粒が混ざり、全体的に灰色がかかる。表土層で現在の整地、盛土と考えられる。粘性なし、しまりややよい。
- 1b: 暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、微量の黒色が混ざり、少量のロームが斑状に混じる。旧表土層と考えられる。粘性なし、しまりよわい。
- 2: 黒褐色土層 黒色土を主体とし、少量の暗褐色土が混ざり、少量のロームが斑状に混じる。粘性ややあり、しまりつよい。
- ①: 暗褐色土層 暗褐色土を主体としながらも多量の黒色土が混ざり、微量のロームも混ざる。粘性つよい、しまりややあり。
- ②: 黒褐色土層 黒色土を主体とし微量の暗褐色混ざり、少量のローム粒を含む。粘性ない、しまりよわい。
- ③: 暗黄褐色土層 暗褐色土を主体としながらも多量のロームが混ざる層。粘性よわい、しまりよわい。
- ①～③は溝の覆土。自然堆積と考えられる。

### 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面を人力により確認後、遺構確認面であるローム上面まで人力で表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成25年12月24日から12月27日まで行われた。24日火曜日、器材搬入、トレンチの設定。人力による包含層、確認面の検出。25日水曜日、表土除去作業継続。26日木曜日、埋め戻し作業。27日金曜日、埋め戻しを終了し、調査を完了した。

### 調査の概要

発掘調査は、調査対象面積 248㎡に対して、トレンチ3か所、掘削面積は22㎡、8.9%の面積を掘削し調査した。調査区の土層は、現地表面より40cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。その間は表土層以下2層が検出されているが、盛土されていると判断された。

試掘時に検出された遺構らしき落ち込みは、近世以降の溝状遺構と判断された。遺物は土師器が2点出土している。

### 調査のまとめ

米本辺田台遺跡は、過去1回、台地先端部で確認調査が行われたが、本跡の全容を明らかにする調査成果は得られていない。今回のb地点においても、遺跡中央部における調査であったが、新しい溝状遺構の検出とわずかな土師器が出土したのみであった。

### 図版16



1. 発掘調査状況



2. Aトレンチ土層断面



3. Bトレンチ検出状況



4. Cトレンチ掘削状況

## 16. 道地遺跡 j 地点

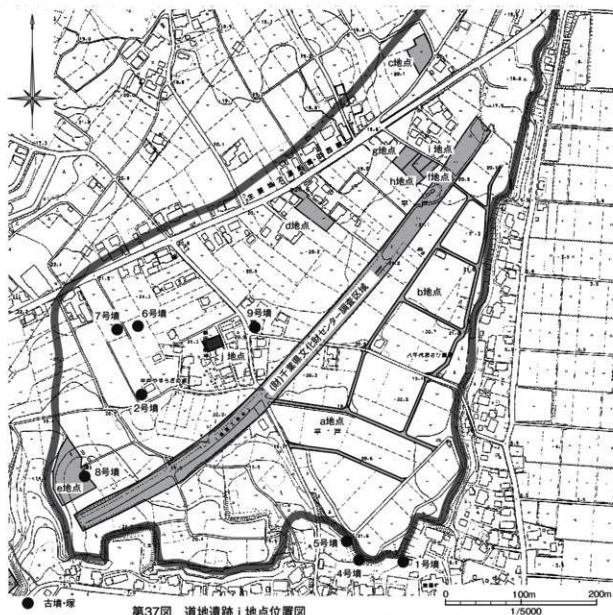
### 遺跡の立地と概要

道地遺跡は、市域の北部の平戸地区に所在する。新川の上流域の左岸の標高20m前後の台地平坦面に立地する。本跡の調査は、過去9回行われている。また、重複して所在する平戸台古墳群の調査も3回行われている。下表のとおり、過去の調査では、弥生時代から古墳時代の堅穴住居跡が多く検出されており、大規模な集落の可能性がある。また、出土遺物も縄文土器のほか、古墳時代及び平安時代の土師器も多数検出されている。

今回の開発区域は台地平坦面で、345.92㎡の全域が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。調査対象となったj地点は遺跡の中央付近に位置し、台地の縁辺よりも300mほどに内陸ある。

### 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に2m×4mを基本とするトレンチを設定した。掘削は遺構確認面を人力により確認後、遺構確認面であるローム上面まで人力で表土を除去した。



第37図 道地遺跡 j 地点位置図

第12表 道地遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	1,100	確認 本調査	弥生時代 住居跡① 古墳時代和室跡 住居跡③ 時期不明 住居跡④	縄文土器 弥生土器 土師器	市議会	SSH.1	※1
	2,500	確認 本調査	住居跡 28 方形竪溝状遺構 2 その他の遺構 16	縄文土器 弥生土器 (後期) 土師器			
c	304,991	確認	縄文時代 (中)① 弥生時代後期 住居跡① 古墳時代前期 住居跡①	縄文土器 弥生土器 古墳時代 土師器	市教委	H18.12	市内H19
d	110,1019	確認	なし	弥生土器	市教委	H18.12	市内H19
	210,2032.52	確認	縄文時代、中継1、土坑6 弥生時代 住居跡① 古墳時代 土坑2	縄文土器 (前～後期) 弥生土器 (後期) 古墳時代後期 土師器、須恵器			
e	438	本調査	奈良・平安時代 遺構②	奈良・平安時代土師器	市教委	H20.4	※2
	平戸台古墳群		平戸台8号墳、竊式石棺	縄文土器 (中期) 弥生土器 (後期) 須恵器、人骨、直刀、鉄鏝、首玉、美玉、小玉			
f	25,248.14	確認	なし	弥生土器 (後期)	市教委	H23.1	市内H23
g	54,532.98	確認	なし	縄文土器 弥生土器 (後期) 古墳時代土師器	市教委	H23.4	市内H24
h	52,518.52	確認	弥生時代後期～古墳時代初期 住居跡①	弥生土器 (後期) 古墳時代前期土師器	市教委	H23.5	市内H24
i	30,297.71	確認	縄文時代中期竊穴住居跡1軒	縄文土器 (中期)、石器	市教委	H23.6	市内H24

※1「平戸台遺跡群」 ※2「道地遺跡」地点・平戸台8号墳

## 平戸台古墳群

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
1号墳	30	確認	方墳1基 竊式石棺	人骨の一部	調査年度	SSH.8	※1
2号墳	15-35	確認	弥生時代後期 住居跡① 古墳時代終末期竊式石棺①	弥生土器 人骨 勾玉、切子玉 鉄刀 鉄鏝 環状鉄製品	市教委	H19.11	※2
	35	本調査		刀子 歯磨			
8号墳	180	確認	古墳時代古墳1基 (平戸台8号墳) 土坑1基	古墳時代後期土師器	市教委	H11.6.29	
						H20.4	※3

※1「平戸台1号墳発掘調査報告書」 ※2「平戸台2号墳」 ※3「道地遺跡」地点・平戸台8号墳

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成26年1月16日から1月22日まで行われた。16日木曜日、器材搬入、トレンチの設定。人力による包含層、確認面の検出。17日金曜日、表土除去作業継続。20日月曜日、表土除去作業継続。21日火曜日、表土除去作業終了。埋め戻し開始。22日水曜日埋め戻し作業を終了し、調査を完了した。

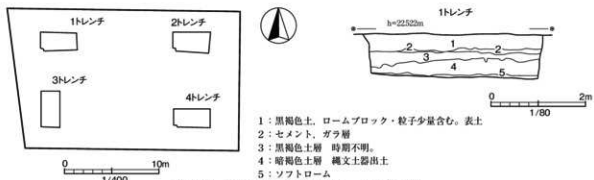
## 調査の概要

発掘調査は、調査対象面積 345.92㎡に対して、トレンチ4か所、掘削面積は32㎡、9.3%の面積を掘削し調査した。調査区の土層は、現地表面より80cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。その間は表土層以下3層が検出されているが、下層は自然堆積が残るが、表土層付近は盛土されていると判断された。

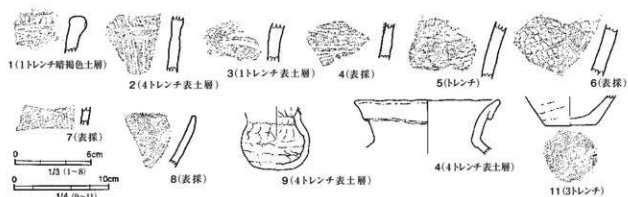
遺構は検出されず、出土遺物は縄文土器12点、弥生土器1点、古墳時代の土師器が71点出土している。

## 調査のまとめ

道地遺跡は、過去に多くの地点で調査が行われているが、各時代の重層化する集落を分析するほどの状況は明らかになっていない。今回、j地点の調査でも縄文土器や弥生土器、古墳時代の土師器など出土しているが、遺構の検出はみられなかった。調査成果として、本跡分析のためのひとつの知見を得た。



第38図 j地点トレンチ配置図・土層断面図



第39図 道地遺跡 j 地点出土遺物

図版17



1. 発掘調査状況



2. 発掘調査状況



3. 1トレンチ土層断面



4. 1トレンチ掘削状況



5. 4トレンチ検出状況



6. 出土遺物

## 17. 稲荷前遺跡 e 地点

## 遺跡の立地と概要

稲荷前遺跡は、市域の南東部の上高野地区に所在する。佐倉市との境を流れる小竹川の上流、上谷津の左岸の標高 25m 前後の台地平坦面に立地する。本跡の調査は、過去 4 回行われている。下表のとおり、過去の調査では、縄文時代の土坑やファイヤーピットなど散見されるが、住居跡などの遺構は検出されていない。また、出土遺物も同様に、縄文土器のほか、奈良・平安時代の土師器も出土している。

今回の開発区域は台地平坦面で、145.81㎡の全域が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。この調査対象となった e 地点は遺跡の北東端に位置し、谷津から約 150 m 離れている。

第 13 表 稲荷前遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	929・7,081	確認	縄文時代ファイヤーピット 1 奈良平安時代方形石礎状遺構 1 近世土坑 1 基	縄文土器 奈良・平安時代 土師器	市教委	H10.3	※1
	120	本調査					
b	180・1814.59	確認	縄文時代 土坑 2	加賀石片 1 点	市教委	H11.10	市内 H12
	4	本調査					
c	300.00・2,156	確認	なし	なし	市教委	H15.2	市内 H15
d	129・1,328.95	確認	なし	なし	市教委	H18.5	市内 H19

※1「不特定報告書 1」

## 調査の方法と経過

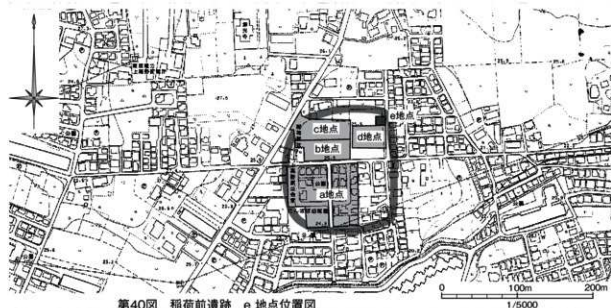
発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意にトレンチを設定した。掘削は重機により、遺構確認面であるローム上面まで表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

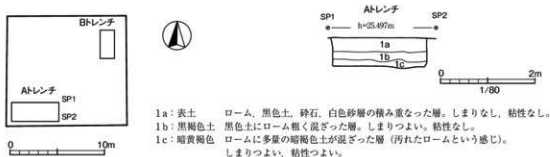
調査は、平成 26 年 2 月 24 日から 2 月 26 日まで行われた。24 日月曜日、器材搬入、トレンチの設定。重機による表土剥ぎ。25 日火曜日、土層実測・写真。26 日水曜日、埋め戻しが作業終了し、調査完了した。

## 調査の概要

発掘調査は、調査対象面積 145.81㎡に対して、トレンチ 2 か所、掘削面積は 14.5㎡、9.9%の面積を掘削



第 40 図 稲荷前遺跡 e 地点位置図



第41図 e地点トレンチ配置図・土層断面図

し調査した。

調査区の土層は、現地表面より60cmほどで遺構確認面としたハードローム層が検出された。その間は表土層以下2層が検出されているが、盛土されていると判断された。

調査の結果、遺構・遺物の検出はなかった。

#### 調査のまとめ

稲荷前遺跡は、過去4回調査が行われている。縄文時代の土坑や奈良・平安時代の溝などが検出されているが、遺跡の性格は明らかとはなっていない。今回のe地点の調査においても遺構遺物の検出はみられず、新たな知見は得られなかった。

#### 図版18



1. 発掘調査状況



2. Aトレンチ土層断面



3. Bトレンチ検出状況



4. Aトレンチ掘削状況



## 18. 東帰久保遺跡 a地点

## 遺跡の立地と概要

東帰久保遺跡は、市域の北部の島田台地区に所在する。新川の上流域で、西側から流れ込む西ノ谷津の左岸の標高22m前後の台地平坦面に立地する。また、船橋市との市境を流れる鈴身川の支流柏谷津が本跡の西側に迫り、両谷津の狹間となっている。本跡の調査は、行われた経緯がない。初めての調査である。

今回の開発区域は台地平坦面で、2335.78㎡の内の一部1,103㎡が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。この調査対象となったa地点は遺跡の西端に位置し、西ノ谷津側の台地の縁辺から350mほど離れている。

## 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に10m方眼を組み、方眼単位に2m×4mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は、平成26年2月27日から3月7日まで行われた。27日木曜日、調査区・トレンチの設定、重機による表土剥ぎ。6日木曜日、埋め戻し開始。7日金曜日、埋め戻し終了により、調査完了。

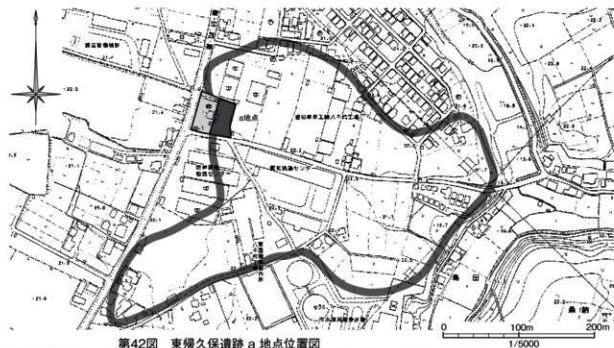
## 調査の概要

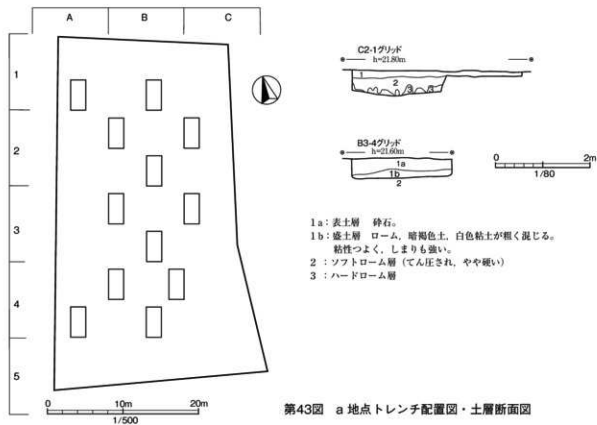
発掘調査は、調査対象面積1,103㎡に対して、トレンチ12か所、掘削面積は96㎡、8.7%の面積を掘削し調査した。調査区の土層は、現地表面より20cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。その間は整地された表土層のみであった。

調査の結果、遺構、遺物の検出はなかった。

## 調査のまとめ

東帰久保遺跡の調査は今回が初めてのものであった。そのため、本跡における手がかりが得られるものと期待されたが、遺構遺物の検出が全くみられず、新たな知見を得ることができなかった。





図版19



1. 発掘調査状況



2. A4-4トレンチ検出状況



3. B3-4トレンチ検出状況



4. C2-1トレンチ土層断面

## 19. 雷遺跡 c 地点

## 遺跡の立地と概要

雷遺跡は、市域の北部の米本地区に所在する。現新川の上流域に流入する栗谷津と上谷津の谷津尻の標高 24 m 前後の台地平坦面に立地する。本跡の調査は、過去 2 回行われている。下表のとおり、過去の調査では、a 地点を中心に弥生時代から平安時代の堅穴住居跡が多く検出されている。また、出土遺物も縄文土器のほか、弥生土器、古墳時代から平安時代の土師器も多数検出されている。

今回の開発区域は台地平坦面で、14,009 m<sup>2</sup>の内の一部 8,009 m<sup>2</sup>が埋蔵文化財包蔵地として、調査対象とされた。調査対象となった c 地点は本跡の西端に位置する。

第 14 表 雷遺跡の調査

地点	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査時期	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	2,870	本調査	住居跡 24 軒 (弥生時代 1 軒、古墳時代後期 5 軒、平安時代 13 軒、時期不明 5 軒) 溝 2 条 土趾 1 基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器	調査会	H15.4	※ 1
b	454/3648.77	確認	時期不明遺跡状遺構 1 基 台地の部分の両側に掘溝を有する	なし	市教委	H12.4	市内田 13
敷屋 (1)	5,563	本調査	溝状遺構 1		福興財団	H19	※ 2
敷屋 (2)	1,200	本調査	遺跡状遺構 1	陶器	福興財団	H11.7	※ 3

※ 1 「栗谷遺跡 役山東遺跡 雲南遺跡 雷遺跡八十代カミナマケアケン開発事業関連遺跡的文化財調査報告書-第 3 分冊-」

※ 2 「本築地方法定事業(4)埋蔵文化財調査報告書」359 巻 ※ 3 「八十代カミナマケアケン開発事業関連遺跡・雲南遺跡・阿蘇中学校敷地遺跡」562 巻

## 調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、任意に 10 m 方眼を組み、方眼単位に 2 m × 4 m のトレンチを設定した。掘削は遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

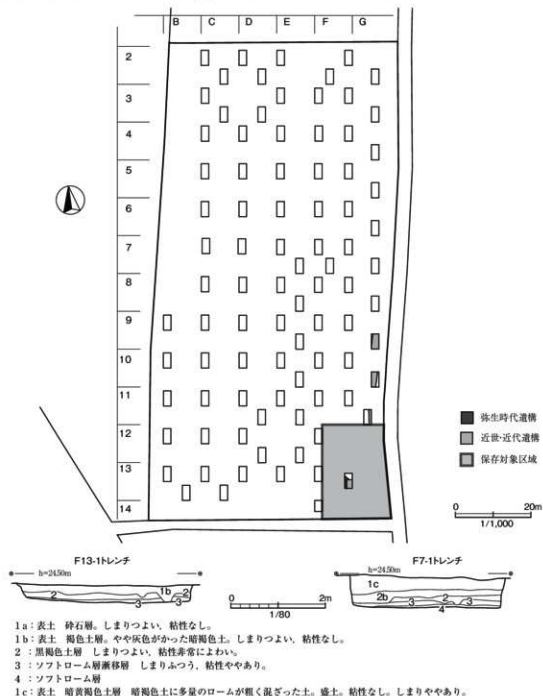


第 44 図 雷遺跡 c 地点位置図

調査は、平成26年3月13日から3月25日まで行われた。14日金曜日から調査区・トレンチの設定。18日火曜日、重機による表土剥ぎ開始。遺構検出作業。19日水曜日まで継続。24日月曜日、遺構検出作業と並行して、埋め戻し開始。25日火曜日、埋め戻しの終了により、調査完了となった。

### 調査の概要

発掘調査は、調査対象面積 8,009㎡に対して、トレンチ 89 か所、掘削面積は702㎡、8.8%の面積を掘削し調査した。調査区の土層は、現地表面より40cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。その間は表土層以下、1～2層の自然堆積土が調査区全域からみられた。



第45図 c地点トレンチ配置図・土層断面図



第46図 雷遺跡c地点出土遺物

調査の結果、弥生時代の竪穴住居跡1軒、近世以降の溝状遺構1条あり、出土遺物は、縄文土器4点、弥生土器1点、土師器22点、須恵器3点、陶磁器やカワラケなど7点が出土している。

調査のまとめ

雷遺跡は特異な位置に立地し、本跡a地点や雷南遺跡における遺構の検出状況から、これらの遺構群の性格が明らかになりつつある。今回のc地点もa地点との関連において、新たな知見を得ることができた。結果、268㎡が保存のための協議対象となり、開発事業者の協力を得て、現状保存されることとなった。

図版20



1. 発掘調査状況



2. F4-1トレンチ掘削状況



3. F10-1トレンチ掘削状況



4. F13-1トレンチ掘削状況



5. G11-2遺構検出状況



6. 出土遺物

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばげんやちよし しなにいせきはくつちょうさほうこくしよ へいせい26ねんど							
書名	千葉県八千代市 市内道路発掘調査報告書 平成26年度							
副書名	上谷津台南道路 h 地点 平作道路 a 地点 平沢道路 d 地点 川崎山道路 s 地点 高津館跡 d 地点 勝田大伴道路 d 地点 白幡前道路 d 地点 小板橋道路 g 地点 高津新山道路 b 地点 高津新山道路 c 地点 内込道路 c 地点 塚場台古墳 c 地点 米本辺田台道路 b 地点 道地道路 j 地点 小板橋跡 h 地点 小板橋道路 i 地点 稲荷前道路 e 地点 東塚久保道路 a 地点 雷道路 c 地点							
編著者名	秋山利光							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 Tel 047-483-1151							
発行年月日	西暦2015(平成27年) 3月25日							
ふりがな 所収道路名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m) 掘削/調査	調査原因
		市町村	道路 番号					
上谷津台南道路 h 地点	上高野字上谷津台1112番3	12221	229	35度 43分 21秒	140度 8分 17秒	平成25年5月2日 ～ 平成25年5月9日	48/420 下層 8/420	宅地造成
平作道路 a 地点	大和田新田字平作830番	12221	141	35度 44分 25秒	140度 5分 16秒	平成25年6月4日 ～ 平成25年6月20日	518/5,190	太陽光発電 設備設置
平沢道路 d 地点	上高野字平沢151-1	12221	217	35度 44分 39秒	140度 7分 45秒	平成25年7月16日 ～ 平成25年7月23日	294/3,020	改良土 プラント
川崎山道路 s 地点	萱田字中台2261番2	12221	241	35度 43分 22秒	140度 6分 26秒	平成25年8月6日 ～ 平成25年8月12日	220/2,263.02	集合住宅
高津館跡 d 地点	高津1329の一部	12221	238	35度 43分 2秒	140度 5分 24秒	平成25年9月9日 ～ 平成25年9月13日	42/500	宅地造成
勝田大伴道路 d 地点	勝田字大伴637番3	12221	254	35度 42分 10秒	140度 7分 32秒	平成25年9月19日 ～ 平成25年9月25日	32/354.53	宅地造成
白幡前道路 d 地点	萱田字牛嶌1767 ほか7筆	12221	185	35度 43分 44秒	140度 6分 32秒	平成25年9月30日 ～ 平成25年10月11日	226/2,306	宅地造成・ 集合住宅
小板橋道路 g 地点	大和田226-2	12221	245	35度 42分 57秒	140度 6分 31秒	平成25年10月17日 ～ 平成25年10月21日	14/165	その他建物
小板橋道路 h 地点	大和田221-13	12221	245	35度 42分 58秒	140度 6分 29秒	平成26年1月21日 ～ 平成26年1月23日	132/145.94	集合住宅
小板橋道路 i 地点	大和田字台田道221-75, 他9筆	12221	245	35度 42分 56秒	140度 6分 30秒	平成26年2月14日 ～ 平成26年2月19日	32/405.49	宅地造成
高津新山道路 b 地点	八千代台北17丁目 1643番10, 11, 27	12221	239	35度 42分 51秒	140度 5分 43秒	平成25年11月13日 ～ 平成25年11月21日	152/1,592.37	宅地造成

高津新山道跡 c地点	高津東3-7-11	12221	239	35度 42分 55秒	140度 5分 42秒	平成25年11月21日 ～ 平成25年11月26日	16/229.34	個人住宅
内込道跡 c地点	八千代台北17丁目 1624番1,2	12221	246	35度 42分 51秒	140度 5分 45秒	平成25年11月29日 ～ 平成25年12月17日	275/2,388	宅地造成
塚場台古墳 c地点	大和田字塚場台285番13	12221	271	35度 42分 48秒	140度 6分 18秒	平成25年12月9日 ～ 平成25年12月16日	20/218.45	個人住宅
米本辺台谷道跡 b地点	米本字辺台1551番6	12221	113	35度 45分 4秒	140度 6分 52秒	平成25年12月24日 ～ 平成25年12月27日	22/248	個人住宅
道地道跡 j地点	平戸字西ノ上287-7	12221	18	35度 46分 21秒	140度 6分 42秒	平成26年1月16日 ～ 平成26年1月22日	32/345.92	個人住宅
桶荷前道跡 e地点	上高野字上谷津台1119-16	12221	232	35度 43分 20秒	140度 8分 10秒	平成26年2月24日 ～ 平成26年2月26日	14.5/145.81	個人住宅
東 婦久保道跡 a地点	高田台字鼠坂816番6	12221	41	35度 45分 45秒	140度 5分 29秒	平成26年2月27日 ～ 平成26年3月7日	96/1,103	店舗建設
雷道跡 c地点	米本字島ノ塚2435番1,4	12221	106	35度 45分 23秒	140度 7分 23秒	平成26年3月13日 ～ 平成26年3月25日	702/8,009	再生エネルギー 設備建設 (太陽発電)

所収道跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上谷津山道跡 h地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	奈良・平安時代土師器	
平作道跡 a地点	包蔵地 集落跡	縄文時代	縄文時代 堅穴住居跡1軒、 土坑1基	縄文土器	
平沢道跡 d地点	包蔵地 集落跡	縄文時代、弥生時代、 奈良・平安時代	なし	縄文土器、弥生土器	
川崎山道跡 s地点	包蔵地 集落跡	縄文時代、弥生時代、 古墳時代、 奈良・平安時代	近現代 溝跡1条	縄文土器、 古墳時代土師器	
高津館跡 d地点	城館跡	中世・近世	なし	近世陶磁器	
勝田大作道跡 d地点	集落跡	縄文時代、古墳時代、 奈良・平安時代	なし	奈良・平安時代土師器	
白幡前道跡 d地点	集落跡	縄文時代、 奈良・平安時代	縄文時代堅穴住居跡2軒、奈良・平安時代堅穴住居跡5軒、 土坑2基、溝跡1条、近世・ 近代溝跡1条	縄文土器、 奈良・平安時代土師器・須恵器	
小板橋道跡 g地点	集落跡	縄文時代、古墳時代、 中世・近世	近世以降 落ち込み1ヶ所	縄文土器、近世かわらけ	
小板橋道跡 h地点	集落跡	縄文時代、古墳時代、 中世・近世	近世・近代 溝跡1条	古墳時代土師器	
小板橋道跡 i地点	集落跡	縄文時代、古墳時代、 中世	なし	なし	

高津新山道跡 b地点	包蔵地 集落跡	旧石器時代、縄文時代、 古墳時代、奈良・平安 時代、中世・近世	近世・近代 溝跡2条	奈良・平安時代土師器	
高津新山道跡 c地点	包蔵地 集落跡	旧石器時代、縄文時代、 古墳時代、奈良・平安 時代、中世・近世	近世・近代 溝跡1条	奈良・平安時代土師器	
内込道跡 c地点	包蔵地 集落跡	古墳時代、 奈良・平安時代	古墳時代 堅穴住居跡7軒、 奈良・平安時代 堅穴住居跡 1軒・土坑7基、近世・近代 溝跡1条	古墳時代 土師器、 奈良・平安時代 土師器	
環場台古墳 c地点	古墳	古墳時代	古墳時代 古墳周溝1条・土坑1基	古墳時代 土師器・須恵器	
米本辺台道跡 b地点	包蔵地	縄文時代、 奈良・平安時代	近世・近代 溝跡1条	土師器	
道地道跡 j地点	包蔵地	縄文時代、弥生時代、 古墳時代	なし	縄文土器、古墳時代土師器	
稲荷前道跡 e地点	包蔵地	縄文時代、 奈良・平安時代	なし	なし	
東帰久保道跡 a地点	包蔵地	縄文時代	なし	なし	
雷道跡 c地点	集落跡	縄文時代、弥生時代、 古墳時代、 奈良・平安時代	弥生時代 堅穴住居跡1軒、 近世 溝跡1条	弥生土器、 奈良・平安時代土師器・須恵器	
要 約	<p>上谷津台南道跡 h 地点 平作道跡 a 地点</p> <p>平沢道跡 d 地点 川崎山道跡 s 地点 高津館跡道跡 d 地点 勝田大作道跡 d 地点 白幡前道跡 d 地点</p> <p>小坂橋道跡 g 地点 小坂橋道跡 h 地点 小坂橋道跡 i 地点 高津新山道跡 b 地点</p> <p>高津新山道跡 c 地点 内込道跡 c 地点</p> <p>環場台古墳 c 地点</p> <p>米本辺台道跡 b 地点 道地道跡 j 地点 稲荷前道跡 e 地点 東帰久保道跡 a 地点 雷道跡 c 地点</p>	<p>道構は検出されなかったが、縄文土器、奈良・平安時代の土師器が出土した。縄文時代の住居跡が1軒、土坑が1基検出され、縄文土器がまとめて出土した。その結果、184㎡が協議対象区域となった。</p> <p>道構は検出されなかったが、縄文土器、弥生土器が出土した。近現代の溝跡1条が検出され、縄文土器、古墳時代土師器が出土した。</p> <p>道構は検出されなかったが、近世陶磁器の土師器が出土した。</p> <p>道構は検出されなかったが、奈良・平安時代の土師器が出土した。</p> <p>縄文時代の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡5軒、土坑2基、溝状道構1条、その他近世近代の溝1条が検出されている。出土遺物では、縄文土器、奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土している。その結果、1,340㎡が協議対象区域となった。</p> <p>近世以降の土坑1基が検出され、縄文土器、近世のかわかけが出土した。</p> <p>近世近代の溝跡が1条検出され、古墳時代の土師器が出土した。</p> <p>道構、遺物の検出はなかった。</p> <p>近世近代の溝跡が2条検出され、古墳時代から奈良・平安時代の土師器が出土した。</p> <p>近世近代の溝跡が1条検出され、奈良・平安時代の土師器が出土した。</p> <p>古墳時代の住居跡7軒、奈良・平安時代の住居跡1軒、土坑7基、その他近世以降の溝状道構1条が検出された。遺物は、古墳時代、奈良・平安時代の土師器が多数出土した。その結果、938㎡が協議対象区域となった。</p> <p>古墳の周溝が1条、土坑1基検出され、縄文土器、古墳時代の土師器が出土した。その結果、119㎡が協議対象区域となった。</p> <p>近世近代の溝跡が1条、土師器が出土した。</p> <p>道構は検出されなかったが、縄文土器、古墳時代の土師器が出土した。</p> <p>道構、遺物の検出はなかった。</p> <p>道構、遺物の検出はなかった。</p> <p>弥生時代後期の住居跡1軒、近世の溝跡1条が検出され、縄文土器、弥生土器、奈良・平安時代の土師器、須恵器、陶磁器やカワラケなども出土した。その結果、268㎡が協議対象区域となった。</p>			



千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書  
平成 26 年度

---

発 行 日 平成 27 年 3 月 25 日  
編 集 ・ 発 行 八千代市教育委員会 教育総務課  
〒 276-0045 八千代市大和田 138-2  
TEL 047-483-1151  
印 刷 金子印刷企画

---